

令和 5 年度

全国博物館長会議（第30回）

日程：令和 5 年 7 月 5 日（水）

目次

【開催要項】

- 令和5年度全国博物館長会議（第30回）開催要項・・・・・・・・・・ 1

【博物館の現状】

- 博物館数の推移・・・・・・・・・・ 2
- 種類別博物館数・博物館の年間開館の状況・・・・・・・・・・ 3
- 博物館における諸集会の実施状況・博物館におけるボランティア活動状況 4
- 博物館（登録，相当施設）の入館者の推移・・・・・・・・・・ 5
- 1館当たりの職員数の状況・種類別博物館数及び学芸員数・・・・・・・・ 6
- 博物館のバリアフリー対応状況・・・・・・・・・・ 7
- 博物館の構成・・・・・・・・・・ 8

【文部科学省・文化庁における博物館関連施策】

- 令和5年度博物館関係予算額一覧・・・・・・・・・・ 9
- 文化庁京都移転に当たっての庁内体制等について・・・・・・・・・・ 10
- 令和5年度学芸員・文化財保護専門技術者等の研修会等一覧・・・・・・・・ 11
- 博物館における学芸員等を対象とした研修事業・・・・・・・・・・ 16
- 博物館機能強化推進事業・・・・・・・・・・ 19
- 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業・・・・ 20
- 文化遺産オンラインについて・・・・・・・・・・ 21
- 公立社会教育施設災害復旧事業被災ミュージアム再興事業・・・・・・・・ 25
- 博物館に対する税制上の優遇措置について・・・・・・・・・・ 26
- 美術品補償制度について・・・・・・・・・・ 28
- 海外の美術品等の我が国における公開の促進に関する法律について・・・ 31

【国立博物館等の概要・企画展一覧】

- 独立行政法人国立科学博物館の概要・令和5年度展覧会予定一覧・・・・ 32
- 独立行政法人国立美術館の概要・令和5年度展覧会予定一覧・・・・ 34
- 独立行政法人国立文化財機構の概要・令和5年度展覧会予定一覧・・・・ 36

【日本博物館協会の取組】

- 公益財団法人日本博物館協会の主要活動について・・・・・・・・・・ 38
- 第70回全国博物館大会決議・・・・・・・・・・ 43
- 2023年「国際博物館の日」記念事業の概要・一覧・・・・・・・・・・ 45
- 第71回全国博物館大会（千葉大会）概要・・・・・・・・・・ 52

【博物館関係団体の概要】

- ・ ICOM日本委員会・・・・・・・・・・ 53
- ・ 公益財団法人日本博物館協会・・・・・・・・・・ 54
- ・ 公益社団法人日本動物園水族館協会・・・・・・・・・・ 55
- ・ 公益社団法人日本植物園協会・・・・・・・・・・ 56
- ・ 一般社団法人全国美術館会議・・・・・・・・・・ 57
- ・ 美術館連絡協議会・・・・・・・・・・ 58
- ・ 全国科学博物館協議会・・・・・・・・・・ 59
- ・ 全国科学館連携協議会・・・・・・・・・・ 60
- ・ 日本プラネタリウム協議会・・・・・・・・・・ 61
- ・ 全国文学館協議会・・・・・・・・・・ 62
- ・ 全国大学博物館学講座協議会・・・・・・・・・・ 63
- ・ 大学博物館等協議会・・・・・・・・・・ 64
- ・ 全国歴史民俗系博物館協議会・・・・・・・・・・ 65
- ・ 日本公開天文台協会・・・・・・・・・・ 66

令和5年度全国博物館長会議（第30回）開催要項

テーマ 「転換期にあるミュージアム ―いま何が求められているのか―」

1. 趣旨

全国の国公立の博物館長に参加を求め、博物館を取り巻く文化政策や現在求められている役割・機能、博物館現場における諸課題について情報共有を行う。また館長のマネジメントの強化を基盤として博物館運営の充実を図り、教育・学術・文化の発展はもとより、中長期的且つ持続的に地域の活力向上に寄与していくための方策を協議する会議とする。

2. 主催 文化庁、公益財団法人日本博物館協会

3. 対象 全国の国公立博物館長

4. 期日 令和5年7月5日（水）

5. 場所 文部科学省 東館3F講堂（東京都千代田区霞が関3-2-2）

6. 日程（※時間及び内容は変更となる可能性があります）

12:00～13:00 受付

13:00～13:10 開会挨拶 文化庁

公益財団法人日本博物館協会

13:10～13:40 「転換期にある博物館行政」（文化庁）

13:40～14:10 「さらなる対話と連携へ」（公益財団法人日本博物館協会）

14:10～14:40 「これからの博物館経営」（大原美術館）

（第3回日本博物館協会賞受賞館）

14:40～14:55 休憩

14:55～17:25 個別講演（講演時間は各30分を予定）

○「ミュージアムDX：課題と展望」（14:55～）

文化庁博物館支援調査官 中尾智行

○「資料保全と博物館連携―神奈川県を事例に―」（15:30～）

神奈川県立歴史博物館館長 望月一樹

○「博物館が連携すること～岐阜県博物館協会の事例～」（16:05～）

美濃加茂市民ミュージアム館長 可児光生

○「栃木県立博物館のコレクションマネジメント関連規定とその運用」（16:40～）

栃木県立博物館前学芸部長 林 光武

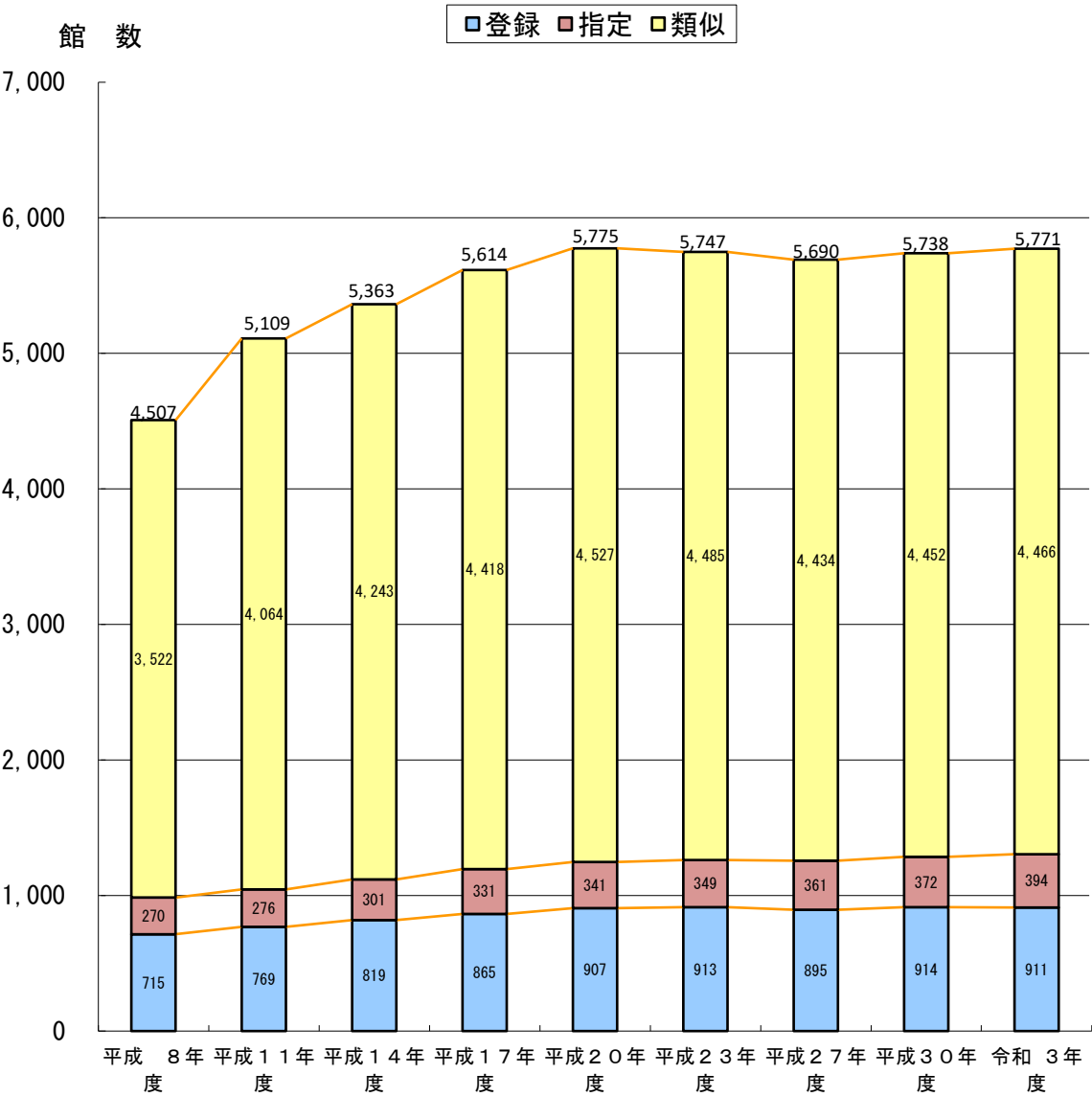
17:30

閉会

博物館の現状について

参考：社会教育調査報告書

1. 博物館数の推移



(館)

区分	計	登録	指定	類似	内 訳			
					国・独法	都道府県	市町村	私立
平成 8 年度	4,507	715	270	3,522	72	313	2,795	1,327
平成 11 年度	5,109	769	276	4,064	154	349	3,173	1,433
平成 14 年度	5,363	819	301	4,243	161	402	3,390	1,410
平成 17 年度	5,614	865	331	4,418	197	418	3,605	1,394
平成 20 年度	5,775	907	341	4,527	206	425	3,739	1,405
平成 23 年度	5,747	913	349	4,485	202	411	3,832	1,302
平成 27 年度	5,690	895	361	4,434	196	401	3,890	1,203
平成 30 年度	5,738	914	372	4,452	228	407	3,918	1,185
令和 3 年度	5,771	911	394	4,466	229	409	3,968	1,165

(※「博物館相当施設」については現行法における呼称である「指定施設」に統一している)

2. 種類別博物館数

(館)											
区分		計	総合博物館	科学博物館	歴史博物館	美術博物館	野外博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館
登録・指定	平成8年度	985	118	100	332	325	11	33	18	9	39
	平成11年度	1,045	126	105	355	353	13	28	16	10	39
	平成14年度	1,120	141	102	383	383	11	31	17	10	42
	平成17年度	1,196	156	108	405	423	13	32	12	9	38
	平成20年度	1,248	149	105	436	449	18	29	11	10	41
	平成23年度	1,262	143	109	448	452	18	32	10	8	42
	平成27年度	1,256	152	106	451	441	16	35	10	7	38
	平成30年度	1,286	154	104	470	453	16	34	11	6	38
	令和3年度	1,305	157	100	476	457	18	36	11	7	43
類似施設	平成8年度	3,522	177	283	2,272	520	48	51	111	19	41
	平成11年度	4,064	219	330	2,561	634	71	65	128	17	39
	平成14年度	4,243	225	342	2,708	651	85	62	124	13	33
	平成17年度	4,418	262	366	2,795	664	93	63	121	16	38
	平成20年度	4,527	280	380	2,891	652	88	58	122	19	37
	平成23年度	4,485	288	363	2,869	635	100	60	113	16	41
	平成27年度	4,434	298	343	2,851	623	93	59	107	14	46
	平成30年度	4,452	318	350	2,858	616	91	59	101	16	43
	令和3年度	4,466	339	347	2,863	604	103	61	92	16	41

3. 博物館の年間開館の状況

(館)												
区分	登録・指定施設						博物館類似施設					
	平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成26年度	平成29年度	令和2年度	平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成26年度	平成29年度	令和2年度
計	1,188	1,240	1,243	1,240	1,266	1,262	4,339	4,436	4,310	4,291	4,303	4,241
割合	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
199日以下	89	104	108	115	131	272	500	523	508	529	534	863
割合	7.5%	8.4%	8.7%	9.3%	10.3%	21.6%	11.5%	11.8%	11.8%	12.3%	12.4%	20.3%
200日～299日	449	448	514	445	445	810	1,419	1,314	1,420	1,278	1,258	2,382
割合	37.8%	36.1%	41.4%	35.9%	35.2%	64.2%	32.7%	29.6%	32.9%	29.8%	29.2%	56.2%
300日以上	650	688	621	680	690	180	2,420	2,599	2,382	2,484	2,511	996
割合	54.7%	55.5%	49.9%	54.8%	54.5%	14.3%	55.8%	58.6%	55.3%	57.9%	58.4%	23.5%
日曜開館	1,104	1,155	1,152	1,152	1,167	1,160	3,834	3,907	3,834	3,851	3,845	3,786
割合	92.9%	93.1%	92.7%	92.9%	92.2%	91.9%	88.4%	88.1%	89.0%	89.7%	89.4%	89.3%

※ 当該年度間の未開館及び翌年度新設の登録博物館、指定施設、博物館類似施設を除く。

4. 博物館における諸集会の実施状況

		登録・指定施設						博物館類似施設					
		平成16年度間	平成19年度間	平成22年度間	平成26年度間	平成29年度間	令和2年度間	平成16年度間	平成19年度間	平成22年度間	平成26年度間	平成29年度間	令和2年度間
館数		1,188	1,240	1,243	1,240	1,266	1,262	4,339	4,436	4,310	4,291	4,303	4,241
実施館数		885	979	992	1,001	1043	878	1,637	1,760	1,823	1,916	1,970	1,566
割合		74.5%	78.9%	79.8%	80.7%	82.4%	69.6%	37.7%	39.7%	42.3%	44.7%	45.8%	36.9%
事業実施	実施件数	29,159	34,179	44,460	55,698	64,637	33,357	39,050	44,894	52,083	61,535	69,370	30,688
	参加者数 (千人)	2,990	3,305	3,596	3,643	4,567	1,348	3,117	4,934	4,619	4,277	4,658	1,335

※1. 当該年度間の未開館及び翌年度新設の登録博物館、指定施設、博物館類似施設を除く。

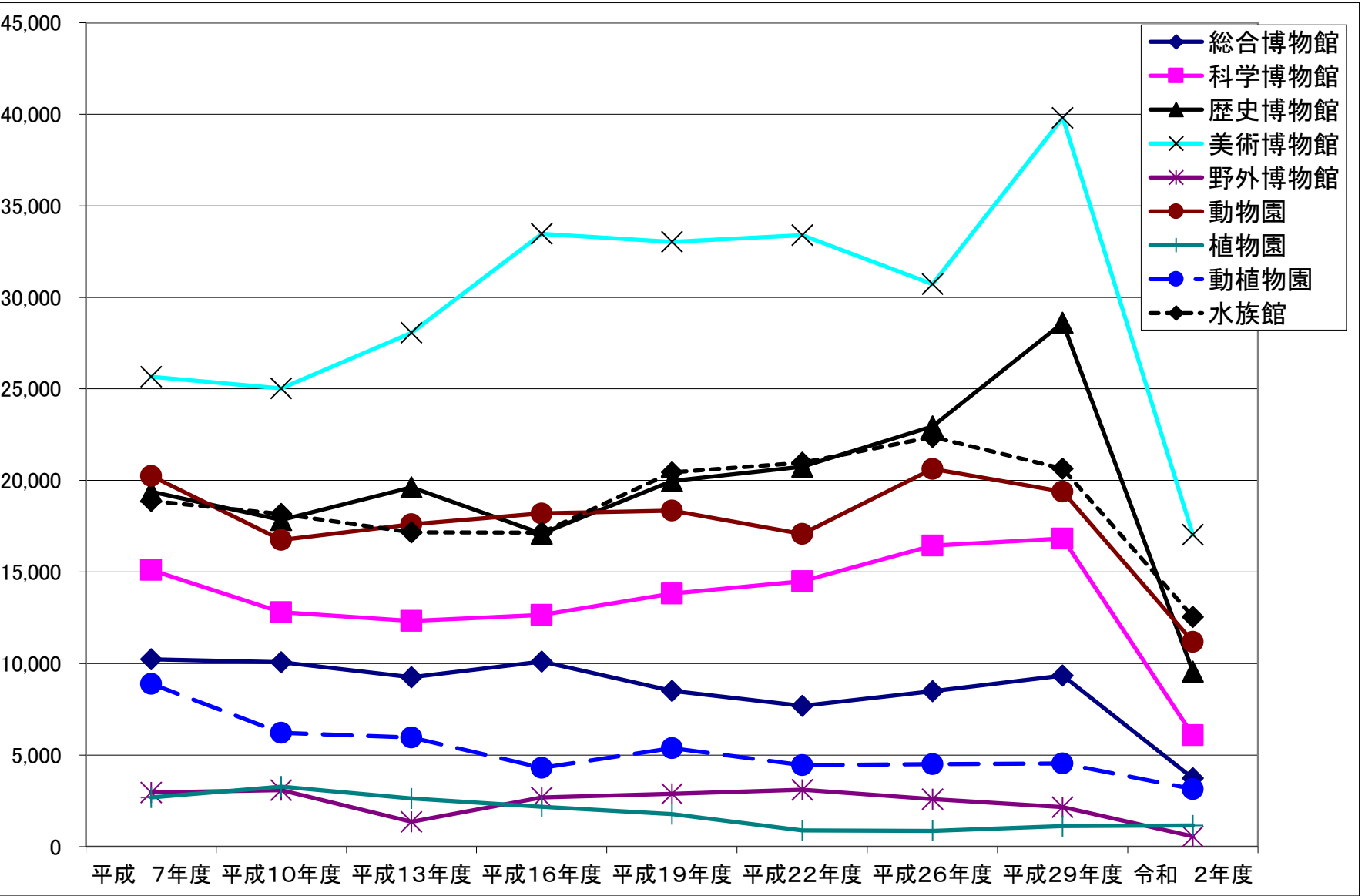
※2. 平成16年度以降の事業実施には、新たに調査を開始した登録博物館・指定施設の学級・講座の実施件数及び参加者数、博物館類似施設の学級・講座の実施件数及び参加者数が含まれる。

5. 博物館におけるボランティア活動状況

区分	平成20年度		平成22年度		平成26年度		平成29年度		令和2年度	
	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設
館数	1,248	4,527	1,262	4,485	1,256	4,434	1,286	4,452	1,305	4,466
登録制度のある館	462	769	509	866	539	908	534	935	537	903
割 合	37.0%	17.0%	40.3%	19.3%	42.9%	20.5%	41.5%	21.0%	41.1%	20.2%
登録団体数	382	762	405	684	526	1182	792	987	653	909
登録者数	29,602	45,986	33,957	38,015	37,942	39,497	35,011	48,938	33,049	33,212

6. 博物館(登録, 指定施設)の入館者の推移

人数



(千人)

区分	総合博物館	科学博物館	歴史博物館	美術博物館	野外博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館	計	1館当り入館者数
登録・指定											
平成 7 年度	10,233	15,116	19,396	25,668	2,961	20,252	2,679	8,898	18,871	124,074	128
平成 1 0 年度	10,073	12,806	17,849	25,034	3,087	16,756	3,279	6,218	18,171	113,273	110
平成 1 3 年度	9,249	12,334	19,617	28,071	1,362	17,603	2,625	5,953	17,163	113,977	103
平成 1 6 年度	10,106	12,658	17,101	33,472	2,687	18,197	2,182	4,300	17,151	117,854	99
平成 1 9 年度	8,500	13,816	19,965	33,029	2,894	18,359	1,778	5,383	20,441	124,165	100
平成 2 2 年度	7,692	14,491	20,754	33,395	3,111	17,083	885	4,456	20,964	122,831	99
平成 2 6 年度	8,499	16,439	22,950	30,724	2,601	20,631	860	4,498	22,377	129,579	104
平成 2 9 年度	9,349	16,830	28,611	39,811	2,157	19,396	1,117	4,538	20,646	142,456	113
令和 2 年度	3,736	6,087	9,572	17,038	560	11,191	1,162	3,147	12,553	65,047	52
類似施設											
平成 1 0 年度	9,741	21,863	60,680	28,380	4,749	15,285	16,121	2,285	8,272	167,376	42
平成 1 3 年度	6,567	20,881	58,438	22,451	4,895	17,284	14,740	1,281	8,989	155,526	37
平成 1 6 年度	8,314	18,002	61,322	23,484	3,934	14,716	12,632	2,347	10,077	154,828	36
平成 1 9 年度	8,568	21,269	57,424	24,227	3,979	15,105	13,622	2,271	9,241	155,706	35
平成 2 2 年度	10,629	19,251	58,211	28,316	3,592	14,648	11,469	1,559	6,146	153,821	36
平成 2 6 年度	11,193	19,172	55,372	23,948	3,503	14,048	11,616	1,327	10,238	150,417	35
平成 2 9 年度	12,466	19,771	59,554	20,499	3,612	14,555	16,983	1,845	11,328	160,613	37
令和 2 年度	4,926	6,774	29,571	8,190	2,484	9,477	6,248	802	6,185	74,657	18

7. 1館当たりの職員数の状況

(人)

区分		計	専 任					兼任	非常勤
			計	館長	学芸員	学芸員補	その他		
登録・指定	平成11年度	14.6	10.5	0.5	2.5	0.3	7.2	1.2	2.9
	平成14年度	14.8	10.2	0.5	2.6	0.3	6.9	1.3	3.3
	平成17年度	14.5	9.6	0.5	2.7	0.3	6.2	0.9	4
	平成20年度	14.4	8.7	0.5	2.6	0.3	5.3	1	4.7
	平成23年度	13.1	7.7	0.4	2.5	0.3	4.5	1	4.4
	平成27年度	13.1	7.6	0.4	2.6	0.3	4.4	1	4.5
	平成30年度	12.9	7.3	0.4	2.5	0.3	4.1	1.1	4.5
	令和 3年度	14.0	7.9	0.4	2.6	0.3	4.5	1.1	5.0
類似施設	平成11年度	6.2	3.2	0.3	0.3	0.02	2.5	1.3	1.8
	平成14年度	6.3	3	0.3	0.3	0.03	2.3	1.3	2
	平成17年度	6.2	2.7	0.3	0.3	0.02	2.1	1.2	2.3
	平成20年度	6.1	2.3	0.2	0.3	0.03	1.8	1.2	2.6
	平成23年度	4.6	1.7	0.2	0.2	0.01	1.3	1.1	1.8
	平成27年度	4.6	1.7	0.2	0.2	0.03	1.2	1.1	1.8
	平成30年度	4.8	1.7	0.2	0.3	0.0	1.2	1.1	2.0
	令和 3年度	5.0	1.7	0.2	0.3	0.0	1.2	1.2	2.1

8. 種類別博物館数及び学芸員数

区分		計	総合博物館	科学博物館	歴史博物館	美術博物館	野外博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館
指 登 定 録	博物館数	1,305	157	100	476	457	18	36	11	7	43
	割 合	100.0%	12.0%	7.7%	36.5%	35.0%	1.4%	2.8%	0.8%	0.5%	3.3%
	学芸員数	5,350	838	441	1,749	1,818	38	178	25	5	258
	割 合	100.0%	15.7%	8.2%	32.7%	34.0%	0.7%	3.3%	0.5%	0.1%	4.8%
類 似 施 設	博物館数	4,466	339	347	2,863	604	103	61	92	16	41
	割 合	100.0%	7.6%	7.8%	64.1%	13.5%	2.3%	1.4%	2.1%	0.4%	0.9%
	学芸員数	3,686	341	255	2,246	620	31	77	18	10	88
	割 合	100.0%	9.3%	6.9%	60.9%	16.8%	0.8%	2.1%	0.5%	0.3%	2.4%

9. 博物館のバリアフリー対応状況

博物館のスロープ等設備の保有館数

区 分		設置率	全館数	計	国	独立行政 法人	都道府県	市（区）	町	村	組合	民法第34 条の法人	その他
スロープ	登録博物館	70%	911	637	—	—	107	309	52	3	2	151	13
	指定施設	71%	394	278	—	23	42	95	12	2	1	17	86
	計	70%	1,305	915	—	23	149	404	64	5	3	168	99
障害者用 トイレ	登録博物館	84%	911	764	—	—	123	386	60	3	2	176	14
	指定施設	84%	394	332	—	30	47	112	13	2	1	18	109
	計	84%	1,305	1,096	—	30	170	498	73	5	3	194	123
エレベーター	登録博物館	61%	911	556	—	—	106	284	29	1	2	126	8
	指定施設	64%	394	253	—	24	40	80	7	2	1	12	87
	計	62%	1,305	809	—	24	146	364	36	3	3	138	95
簡易昇降機	登録博物館	9%	911	79	—	—	17	35	7	—	—	19	1
	指定施設	10%	394	40	—	5	3	14	2	—	—	3	13
	計	9%	1,305	119	—	5	20	49	9	0	0	22	14
点字による案内	登録博物館	21%	911	189	—	—	68	100	3	—	—	16	2
	指定施設	23%	394	89	—	6	25	40	2	—	—	1	15
	計	21%	1,305	278	—	6	93	140	5	0	0	17	17
外国人向け案内	登録博物館	46%	911	419	—	—	99	171	24	1	1	116	7
	指定施設	52%	394	203	—	20	39	67	4	—	1	15	57
	計	48%	1,305	622	—	20	138	238	28	1	2	131	64

博 物 館 の 構 成

令和3年10月1日現在

	登録博物館 9 1 1	指定施設 3 9 4	博物館類似施設 4, 4 6 6	合 計 5, 7 7 1
国公立	6 1 5	2 2 3	3, 7 7 1	小 計 4, 6 0 9
	※博物館法上、国立の登録博物館はない。	※国・独立行政法人によるものは33館	※国・独立行政法人によるものは196館	
一般財団法人立 公益財団法人立	2 6 9	3 2	1 3 2	小 計 4 3 3
その他の法人	2 7	1 3 9	5 6 3	小 計 7 2 9

※その他の法人には、登録博物館では宗教法人等、指定施設・博物館類似施設では宗教法人、株式会社立等がある。

・登録博物館

博物館法に基づき博物館資料、職員、施設、事業内容等に係る審査を経た上で、国民の教育、学術、文化の発展に寄与するものとして登録されたもの。

・指定施設

博物館法に基づき登録博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料、職員、施設、事業内容等に係る審査を経た上で、博物館に相当する施設として指定されたもの。

・博物館類似施設

博物館法の適用を受けない施設であるが、博物館と同種の事業を行うものとして、都道府県教育委員会で把握（社会教育調査の対象）しているもの。

令和5年度 博物館関係予算額一覧

単位：千円

事 項	施 策 の 概 要	令和4年度 予 算 額	令和5年度 予 算 額	比 較 増 △ 減 額	担当課等
1. 博物館機能強化の推進					
(1) 文化庁					
① Innovate MUSEUM 事業	博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開・発信や、博物館における業務のDX化に効果的に取り組む館の事業を支援し、デジタル化されたデータの活用や業務フローの効率化を図るとともに、これからの博物館が新たに求められる社会的・地域的な課題（人口減少、社会包摂等）への対応に関する先進的な取組みとして（1）地域課題対応事業、（2）ネットワークの形成による広域等課題対応事業を支援し、その内製化と横展開を目指す。	319,386	343,386	24,000	企画調整課
② 博物館の経営改善・機能強化の促進事業	①新たな登録制度の価値を高めるための積極的なプロモーション、②博物館活動の質を高めるための体制整備、③博物館人材養成・質の向上に資する研修等の実施など、博物館の活動を後押しする基盤を構築する。	104,988	95,286	△ 9,702	企画調整課
③ 博物館人材養成・質の向上	学芸員資格の付与、学芸員等に対する研修や知識・技術の習得等を目的とした海外博物館への派遣等、学芸員の資質向上に関する事業を展開。	65,217	55,505	△ 9,712	企画調整課
2. 博物館等文化拠点機能強化・地域文化観光推進プラン					
(1) 文化庁					
① 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業	文化の振興、観光の振興、地域の活性化の好循環を生み出すことを目的とする「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」に基づく拠点計画及び地域計画の実施等のための事業について支援。	2,070,000	1,875,000	△ 195,000	参事官（文化拠点担当）
3. 学芸員等の資質の向上					
(1) 文化庁					
① 博物館学芸員等専門研修	学芸員に求められる専門的な知識・技術の一層の向上を図るための研修を実施。	43,902	34,899	△ 9,003	企画調整課
4. 文化資源の持続可能な活用の促進					
(1) 文化庁					
① アートエコシステム基盤形成促進事業【新規】	美術品市場における基盤を整備し、その拡大を図ることを目指す。アート市場活性化WG（R3.3）、アート振興WG（R4.3）では、市場の拡大における基盤の脆弱性が指摘されていた。特に流通における来歴の管理、評価額の不透明性が市場の拡大に障害となっていることが明らかになっており、本事業を通して、その障害を改善して市場を拡大し、もってアート全体のエコシステムの形成の一端を担う。	0	46,000	46,000	文化経済・国際課
② 登録美術品制度の実施	国民の美術品を鑑賞する機会の拡大を図るため、「美術品の美術館における公開促進に関する法律」に基づき、登録美術品制度の円滑な実施を図る。	2,080	2,080	0	企画調整課
③ 文化遺産オンライン構想の推進	博物館・美術館等の収蔵品や国・地方の有形・無形の文化財情報を集約して発信する、ポータルサイトである文化遺産オンラインの充実を図る。	106,737	101,737	△ 5,000	政策課
④ 国立アイヌ民族博物館の運営等	アイヌ施策推進法に基づき国立アイヌ民族博物館の管理運営費を計上。アイヌの歴史や文化に関する正しい認識と理解の促進のため、教育普及や展示・情報発信を充実する。	1,609,997	1,624,439	14,442	企画調整課

⑤ 文化財海外交流展	我が国の優れた文化財を諸外国に紹介することにより、我が国の歴史と文化に対する理解の増進と国際親善の推進に寄与することを目的として、日本古美術品の海外展を開催する。	26,000	26,000	0	文化財第一課
5. 国際観光旅客税財源事業（※旅客税財源を活用。予算額は内数。）					
（１）文化庁					
① 地域ゆかりの文化資産を活用した 展覧会支援事業	文化庁や国立博物館等が所蔵する地域 ゆかりの文化財の地方博物館での展示 を支援。（日本博予算の一部を活用）	1,440,000	2,456,215	1,016,215	文化財第一課
6. 東日本大震災関係					
（１）文化庁					
① 被災ミュージアム再興事業	東日本大震災で被災した博物館資料の 修理、修理した資料の整理・データ ベース化、応急処置を施した資料を収 蔵する場所の確保等に必要な経費を支 援する。	245,130	209,674	△ 35,456	企画調整課
7. 独立行政法人					
（１）文化庁					
① 独立行政法人国立科学博物館の事 業運営に必要な経費	事業運営に必要な経費	2,546,467	2,840,150	293,683	独立行政法人 国立科学博物館
② 独立行政法人国立文化財機構の事 業運営に必要な経費	事業運営に必要な経費	8,918,489	9,577,448	658,959	独立行政法人 国立文化財機構
③ 独立行政法人国立美術館の事業運 営に必要な経費	事業運営に必要な経費	8,423,176	7,739,050	△ 684,126	独立行政法人 国立美術館
④ 独立行政法人国立美術館施設整備 費	施設整備に必要な経費	400,000	400,000	0	独立行政法人 国立美術館
（２）文部科学省（科学技術・学術政策局）					
① 未来共創推進事業 （国立研究開発法人科学技術振興 機構運営費交付金の内数であるた め推計額）	科学技術イノベーションにより社会的 課題などへの対応を図るため、日本科 学未来館における多様な科学コミュニ ケーション活動の推進、科学コミュニ ケーターの養成、多様な主体が対話・ 協働を行う日本最大級のオープン フォーラム「サイエンスアゴラ」の開 催等、社会との共創に向けた取組を実 施する。	3,105,418	3,162,702	57,284	国立研究開発法人 科学技術振興機構
合 計		29,426,987	30,589,571	1,162,584	

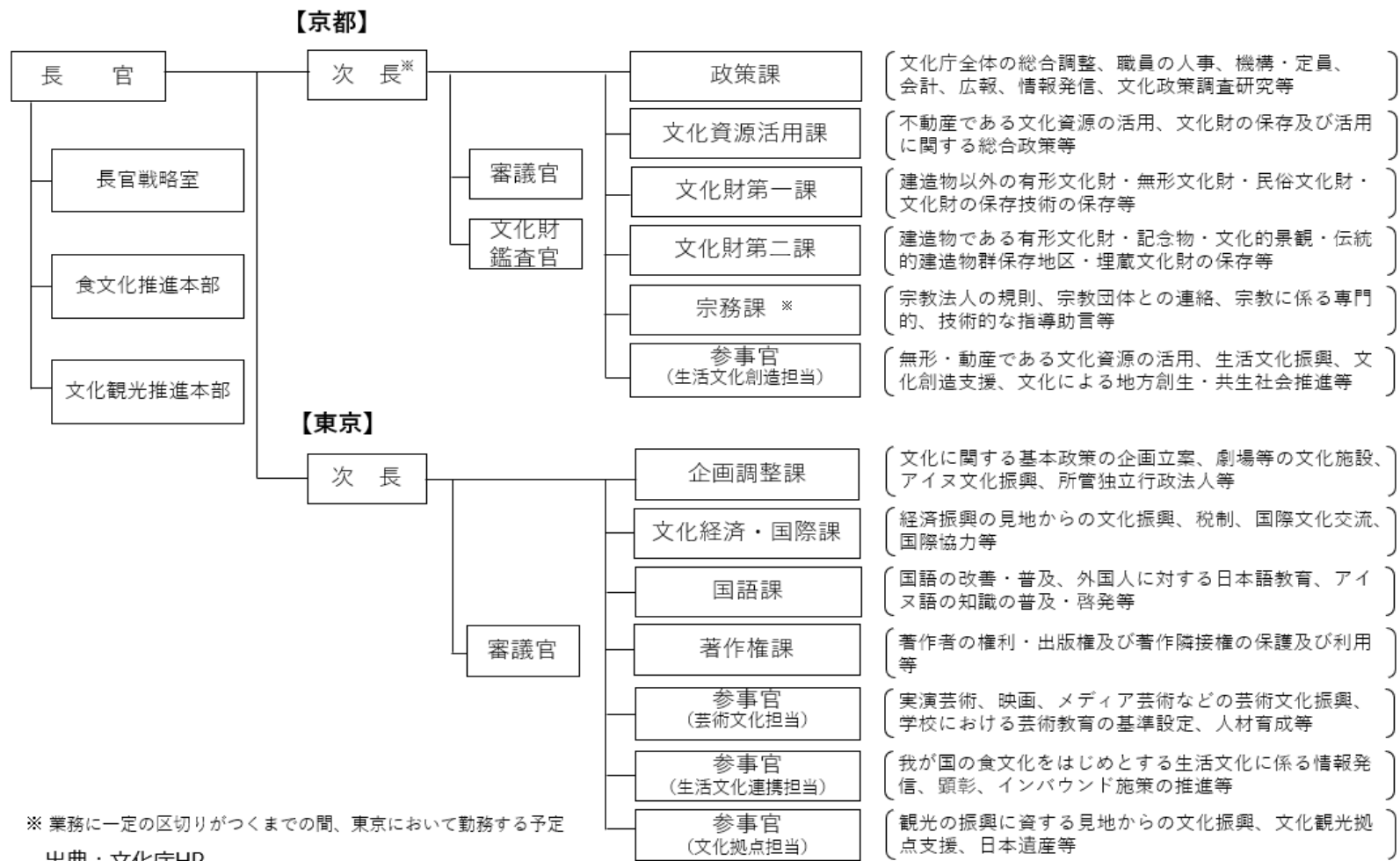
（参考）

※「子どもゆめ基金」による助成

独立行政法人国立青少年教育振興機構が設置する「子どもゆめ基金」事業により、民間団体が実施する博物館を含めた様々な場における子供の体験活動等に対し、引き続き助成を行う予定。 <http://yumekikin.niye.go.jp/>

文化庁京都移転に当たっての庁内体制等について

【令和５年３月27日以降の文化庁の主な体制（イメージ）】



令和5年度 学芸員・文化財保護専門技術者等の研修会等一覧（文化庁等関係）

※開催時期・期間等は今後変更の可能性がある

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
「文化をつなぐミュージアム」研修	博物館の設置者・行政職員等、ミュージアムの地域課題解決や中長期的な将来構想に関係する者	博物館の設置者・行政職員等、ミュージアムの地域課題解決や中長期的な将来構想に関係する者に対して、これからのミュージアムに求められる役割に関する基本的な知識に関する研修を行い、外部からミュージアムの管理・運営に関わる人材の力量を高める。	令和5年12月上旬（3日間）（予定）	オンライン配信	文化庁企画調整課 博物館振興室	-
	300名程度（予定）					
ミュージアム トップマネジメント研修	主として登録博物館、博物館相当施設の館長・副館長・管理職	ミュージアムの館長、管理職員に対し、博物館の役割と機能、マネジメント、事業評価・改善等に関する専門知識、また、博物館を取り巻く社会の動向などについて学ぶ機会を提供し、博物館運営の責任者としての力量を高める。	令和5年9月下旬（3日間）（予定）	国立教育政策研究所およびオンライン配信	文化庁企画調整課 博物館振興室	-
	50名程度（予定）					
ミュージアム パブリックリレーションズ研修	博物館に勤務する学芸員等専門職員	ミュージアムの学芸員等専門職員を対象に、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからのミュージアムに求められる役割に必要な知識・技能を培う研修を行い、ひいては博物館運営に関わることができる人材を育成する。	令和6年2月頃（5日間）（予定）	東京都内（未定）およびオンライン配信	文化庁企画調整課 博物館振興室	-
	50名程度（予定）					
文化財行政講座	地方公共団体等の文化財行政担当職員等で、経験年数3年未満の者	文化財行政の遂行に必要な基礎的事項及び実務上の課題に関する研修	令和5年11月27～29日	京都府庁舎およびオンライン開催（予定）	文化庁文化資源活用課	計画推進係
	200名程度（予定）					
「文化財保存活用地域計画」研修会	地方公共団体等の文化財行政実務担当職員等	「文化財保存活用地域計画」の作成に必要な事項、実務上の課題、事例紹介に関する研修（実地研修含む）	令和5年10月24日～27日（予定）	千葉県香取市（予定）	文化庁文化資源活用課	計画推進係
	100名程度					
「文化財保存活用支援団体」研修会	地方公共団体等の文化財行政実務担当職員等	「文化財保存活用支援団体」の概要や指定のための基礎的事項についての研修	未定	未定	文化庁文化資源活用課	計画推進係

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
歴史民俗資料館等専門職員研修会	歴史民俗資料館，教育委員会等で資料（文化財を含む）の保存と活用にあたる専門職員で，原則として勤務経験５年未満の者	歴史資料，考古資料，民俗資料等の調査，収集・保存，公開等に必要な専門的研修を行う。	令和5年11月13日（月）～11月17日（金）	国立歴史民俗博物館	文化庁参事官（生活文化創造担当）	活用連携係
	30名程度					
民俗文化財担当者会議	都道府県，政令指定都市民俗文化財担当者	民俗文化財事務の適正な遂行を図るため，これに従事する行政担当者に対して必要な事項の連絡等を行い，もって民俗文化財保護の充実を図る。	令和5年7月頃	オンライン配信	文化庁参事官（生活文化創造担当）	活用連携係
	60名程度					
指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー	指定文化財(美術工芸品)を公開する博物館等の学芸担当者	有形文化財(美術工芸品)の公開に関する専門的知識・技能の研修を行う。	東会場：令和5年7月3日（月）～7日（金） 西会場：令和5年8月21日（月）～25日（金）	東会場：東京国立博物館 西会場：京都国立博物館	文化庁参事官（生活文化創造担当）	活用連携係
	10～15名程度×２会場					
文化財(美術工芸品)保存修理講習会	文化財(美術工芸品)の修理に携わる事業者等の技術者等および，文化財(美術工芸品)の修理を担当する地方公共団体の担当者，学芸員等	文化財(美術工芸品)の修理に関わる専門的知識等の研修	令和５年11月～12月頃	オンライン配信（予定）	文化庁参事官（生活文化創造担当）	活用連携係
	500名程度					
国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会	教育委員会等および博物館等施設の防災・防犯対策担当者	都道府県教育委員会や美術館・歴史博物館の職員等に対し，国宝・重要文化財（美術工芸品）等の効果的な防災・防犯対策及び国庫補助事業の説明並びに文化財保護法上必要な手続きについての研修を実施し，文化財の適切な活用，保存及び継承を図る。	令和5年6月22日（木）	オンライン配信	文化庁参事官（生活文化創造担当）	活用連携係
	500名程度					
公開承認施設担当者会議	公開承認施設の学芸担当者および教育委員会等の公開承認施設事務担当者	都道府県教育委員会や公開承認施設的美術館・博物館の職員等に対し，国宝・重要文化財（美術工芸品）等の適切な保存管理及び安全な公開活用の事例紹介並びに保護法上必要な手続きについての説明を実施し，公開承認施設における文化財の適切な公開活用，保存及び継承を図る。	令和5年6月23日（金）	オンライン配信	文化庁参事官（生活文化創造担当）	活用連携係
	500名程度					
銃砲刀剣類登録事務協議・登録鑑定実技講習会	（登録事務協議） 銃砲刀剣類登録事務担当	銃砲刀剣類登録規則(昭和３３年文化財保護委員会規則第１号)に規定する，美術品若しくは骨董品として価値のある火縄式鉄砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の登録に当たったの鑑定に関し，実技講習を行うことにより，登録審査委員の資質の向上を図り，もって銃砲刀剣類の登録事務のさらなる円滑化を図る。	秋頃開催（予定） （令和4年度は11月7日（月）に実施）	文化庁東京庁舎およびオンライン配信の併用 （昨年度はオンライン開催）	文化庁文化財第一課	調査係
	各都道府県から１名		秋頃開催（予定） （令和4年度は11月8日（火）に実施）			
	（登録鑑定実技講習） 登録審査委員					
	各都道府県から２名					

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
埋蔵文化財担当職員等講習会	地方公共団体，公益法人等の埋蔵文化財担当職員等	発掘調査に当たり開発事業者等との協議を担当する地方公共団体の埋蔵文化財担当職員等に，埋蔵文化財行政に必要な知識を習得させることにより，円滑な発掘調査の実施を図ることを目的とする。	令和6年1月31日（水） ～2月2日（金）	和歌山県	文化庁文化財第二課	埋蔵文化財部門
文化財マネジメント職員養成研修	地方公共団体，法人調査組織の文化財専門職員	文化財保存活用大綱及び文化財保存活用地域計画の策定するうえで，各地方公共団体において，文化財の価値を相対的に把握し，一体的な保存と活用を企画・立案する専門的な人材を養成することを目的とする。	令和5年11月7日（火） ～11月10日（木）	埼玉県	文化庁文化財第二課	埋蔵文化財部門
	各80名程度					
文化的景観保護実務研修会（基礎コース）	地方公共団体において文化的景観に関する業務に従事する職員等	制度の概要と運用における留意事項，保護の課題とその取り組み事例等について説明すると共に，国庫補助事業等に係る諸連絡やより良い制度運用に向けた情報提供を行う。	令和5年 4月18日（火）	オンライン開催	文化庁文化財第二課	文化的景観部門
文化的景観保護実務研修会（実践コース）	地方公共団体において文化的景観に関する業務に従事する職員等	文化的景観の保存活用に係る課題に対応する上で必要な専門的事項に関する研修	令和5年 秋頃	未定	文化庁文化財第二課	文化的景観部門
	各40名程度					
登録有形文化財(建造物)事務担当者連絡会	地方公共団体の文化財行政担当者	登録有形文化財建造物にかかる事務手続きの説明や保存活用にかかる取組の報告などを通じて，登録制度の理解促進及び担当者間の情報共有を図る。	令和5年 6月8日（木）	オンライン開催	文化庁文化財第二課	登録部門（建造物）
	120名程度					
伝統的建造物群保護行政研修会	地方公共団体の職員及び伝統的建造物群の保存に関わる専門家・技術者等	伝統的建造物群保存地区に関わる職務遂行に必要な基礎的事項に関する研修	令和5年7月5日（水） ～7月7日（金）	福井県小浜市	文化庁文化財第二課	伝統的建造物群部門
(基礎コース)	30名程度					

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
文化財建造物修理主任技術者講習会	文化財建造物修理工事の設計または施工の監理等の実務経験を有する者	文化財建造物保存修理工事の主任技術者として必要な知識及び技術の研修 令和４年度に前期を実施し、令和５年度に後期を実施。	後期：令和5年 8月24日 ～9月1日	未定（京都市内を予定）	文化庁文化資源活用課	修理指導部門
(普通コース)	30名程度					
文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会	都道府県・市町村の文化財建造物担当者及び文化財建造物修理主任技術者等	重要文化財建造物保存修理事業等の適正な遂行を図るため、技術上の総括的な指揮監督にあたる者と事業に伴う技術的諸問題について協議をし、もって修理技術の向上と設計監理業務の円滑な実施を図る。	令和5年 10月16日（月）	未定 （京都市内を予定）	文化庁文化資源活用課	修理企画部門
	人数未定					

※この他「文化財を中核とする観光拠点形成に向けたオンライン講座」を文化庁HPにて公開（http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/kankokyoten_koza/index.html）

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
学芸員専門研修アドバンスト・コース	自然科学系博物館等の学芸員等専門職員	自然科学系博物館等に勤務する中堅学芸員を対象に、一層の資質向上を目的として高度な内容の研修を行う。	令和5年 11月6日（月） ～11月9日（木）	国立科学博物館 ・筑波研究施設 ・上野本館	独立行政法人 国立科学博物館	学習課
	10名程度					
オンライン学芸員専門研修	自然科学系博物館等の学芸員等専門職員 （当該分野における経験年数概ね10年以内のものを優先）	自然科学系博物館等に勤務する学芸員を対象に、資質向上を目的としてオンラインによる研修を行う。	令和5年度下半期の 月曜日3日間程度	オンライン	独立行政法人 国立科学博物館	学習課
	30名程度					
美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修	① 小・中・高等学校、特別支援学校等の教員 （国公立校，私立校全ての教員） ② 美術館学芸員 ③ 指導主事	鑑賞教育の重要性を踏まえ，全国の教員と美術館の学芸員などが一堂に会してグループ討議等を行うことにより，美術館を活用した鑑賞教育の充実及び学校と美術館の一層の連携を図る。	令和5年 8月7日（月） 8月8日（火）	・国立国際美術館 ・大阪府立国際会議場 （グランキューブ大阪）	独立行政法人 国立美術館	研修担当
	80名程度					
独立行政法人国立美術館キュレーター研修	公私立美術館の学芸担当職員	公私立美術館の学芸担当職員を対象とした研修を実施し，その専門的知識及び技術の向上を図る。	4月1日～翌年3月31日の 期間で研修生の希望を踏まえ，受入館が承認した期間とする。	・東京国立近代美術館 ・国立工芸館 ・京都国立近代美術館 ・国立西洋美術館 ・国立国際美術館 ・国立新美術館	独立行政法人 国立美術館	研修担当
	若干名					
博物館・美術館等保存担当学芸員研修 （基礎コース）	国公立博物館・美術館等に勤務する資料保存担当者又は教育委員会等に勤務する社寺等の資料の保存担当者	展示・収蔵空間における環境管理に関する基礎的な知識及び技術についての講義・実習を行う。	【第1回】令和5年 7月31日（月） ～8月4日（金） 【第2回】令和6年 1月22日（月） ～1月26日（金）	東京国立博物館 黒田記念館セミナー室	独立行政法人 国立文化財機構 文化財活用センター	文化財活用センター 保存担当
	第1回、第2回とも20名程度					
博物館・美術館等保存担当学芸員研修 （上級コース）	国公立博物館・美術館等に勤務する保存担当者又は教育委員会等に勤務する有形文化財（美術工芸品）等の保存担当で、令和2年までの博物館・美術館等保存担当学芸員研修または令和3年以降同研修（基礎コース）を受講した者もしくは同等の経験を有する者	文化財保存に関する専門性の高い知識及び技術についての講義・実習を行う。	令和5年 7月10日（月） ～7月14日（金）	東京文化財研究所	独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所	東京文化財研究所保存科学研究センター
	20名程度					
文化財担当者研修	地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財保護行政に必要な専門的知識と技術について研修を行う。	年間を通し，5日間程度の研修を14課程開催予定 （課程ごとにそれぞれ異なる。）	奈良文化財研究所 外	独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所	総務課
	各課程15名程度					

博物館における学芸員等を対象とした研修・派遣事業

改正博物館法の施行にともない、収集保管・展示・調査研究等の「学芸業務」、広報・PR・教育普及・デジタル化・ファンドレイズ等の「専門業務」、管理運営・財務会計・評価等の「マネジメント業務」、いずれの職能も博物館における変化や新たな取組への対応がより一層求められることとなり、文化庁では令和4年度より以下の研修を実施している。

I 「文化をつなぐミュージアム」研修

1 事業の趣旨

博物館の設置者・行政職員等、ミュージアムの地域課題解決や中長期的な将来構想に関係する者に対して、これからのミュージアムに求められる役割に関する基本的な知識に関する研修を行い、外部からミュージアムの管理・運営に関わる人材の力量を高める。

2 事業の内容

- ① 主催者 文化庁
- ② 対象者 博物館の設置者・行政職員等、ミュージアムの地域課題解決や中長期的な将来構想に関係する者
- ③ 定員 300名程度（予定）
- ④ 実施期間 令和5年12月上旬（3日間）（予定）
- ⑤ 実施方式 オンライン

II ミュージアムトップマネジメント研修

1 事業の趣旨

ミュージアムの館長、管理職員に対し、博物館の役割と機能、マネジメント、事業評価・改善等に関する専門知識、また、博物館を取り巻く社会の動向などについて学ぶ機会を提供し、博物館運営の責任者としての力量を高める。

2 事業の内容

- ① 主催者 文化庁、国立教育政策研究所
- ② 対象者 ・主として登録博物館、博物館相当施設の館長・副館長・管理職
・上記と同様の職務を行うと主催者が認めた者
- ③ 定員 50名程度（予定）
- ④ 実施期間 令和5年9月下旬（3日間）（予定）
- ⑤ 実施方式 国立教育政策研究所＋オンライン

Ⅲ ミュージアム パブリックリレーションズ研修（仮称・新規）

1 事業の趣旨

ミュージアムの学芸員等専門職員を対象に、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからのミュージアムに求められる役割に必要な知識・技能を培う研修を行い、ひいては博物館運営に関わることができる人材を育成する。

2 事業の内容

- ① 主 催 者 文化庁
- ② 対 象 者 博物館に勤務する学芸員等専門職員
- ③ 定 員 50名程度（予定）
- ④ 実施期間 令和6年2月（5日間）（予定）
- ⑤ 実施場所 東京都内（未定）＋オンライン

Ⅳ ミュージアム専門職員等在外派遣事業

1 事業の趣旨

博物館に勤務する学芸員等を博物館に関する国際会議や海外の博物館等に派遣し、発表や調査・研究の機会を提供することで、国際的なネットワークの構築や我が国の博物館の国際プレゼンスの向上を図るとともに、派遣成果を広く共有し、派遣者の勤務館での職務遂行だけでなく我が国及び地域の博物館における活動において有効活用することにより、我が国の博物館の機能強化につなげる。

2 事業の内容

- ① 主 催 者 文化庁
- ② 派遣期間 特別派遣：14日未満（国際会議への参加）
短期派遣：15日以上90日未満
長期派遣：90日以上
※ 短期・長期は博物館等での調査・研究を伴う派遣とする。
- ③ 対 象 者 博物館に勤務する館長および学芸員等の専門職員、大学等において博物館法施行規則第一条に規定する博物館に関する科目（生涯学習概論は除く）について自ら教育研究を行うことを主たる職務とする者等で、以下の①から⑤の条件を満たす者とする。
 - ・博物館や大学等における実務経験を有すること。
 - ・海外の博物館関係者とネットワークを構築するために必要な語学力を有すること。
 - ・国際会議への出席、海外の博物館・博物館関係団体での調査・研究の受入等が可能である保証があること。

- ・令和５年３月に実施予定の本事業の報告会での報告や、文化庁ホームページでの成果報告書の公開等、本事業での成果の普及や文化庁が行う国際的な調査事業等に協力できること。
- ・心身ともに健全であること。

④ 募集締切 調整中

⑤ 経 費 「国家公務員等の旅費に関する法律」等に基づき、往復の航空賃等日当及び宿泊料を予算の範囲内で文化庁が支給する。

⑥ 派遣人員 若干名

⑦ 派遣先 派遣先会議、施設については、派遣者において確保すること

背景・課題

令和4年4月、博物館法（昭和26年法律第285号）がおおよそ70年ぶりに大幅に改正され、資料のデジタル・アーカイブ化などの博物館の新たな業務が付加されるとともに、地域の活力向上のために関係機関と連携することなど、博物館の新たな役割が規定されることとなった。新たな法の趣旨を実現するためには、博物館が資料のデジタル・アーカイブ化や自身のDXの取組を積極的に進めつつ、文化芸術の価値を活かしながら、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野において、中核としての役割を果たす存在となる必要がある。この観点から、特に、5年間の経過措置期間（令和9年度まで）を集中期間として、博物館の資金・人材・施設等の基盤を強化し、特色ある取組を全国各地で推進する。 ※博物館には、美術館、科学館、動物園、水族館等が含まれる。

事業内容

法改正を踏まえ、博物館のデジタル・アーカイブ化の取組や地域に貢献する特色ある取組を支援するとともに、新たな制度が効果的に運用されるような基盤の整備を図る。

(1) Innovate MUSEUM事業

① Museum DXの推進（新規）令和5年度予算額案：100百万円

博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開・発信や、博物館における業務のDXに効果的に取り組む館の事業を支援し、デジタル化されたデータの活用や業務フローの効率化を図る。

- 件数・単価：5件 × 20百万円
- 事業期間：令和5年度～

② 特色ある博物館の取組支援 令和5年度予算額案：200百万円

これからの博物館が新たに求められる社会的・地域的な課題（地方創生、都市再生、人口減少、社会包摂等）への対応に先進的に取り組む事業を支援し、その内製化と横展開を目指す。

- 件数・単価：①単館型 25件 × 4百万円
- ②ネットワーク型 5件 × 20百万円

- 事業期間：令和4年度～

※令和4年度事業で支援を受けた課題についても、事業成果を審査の上で継続を認める

(2) 新制度におけるミュージアム応援事業

博物館法の改正を踏まえて、①新たな登録制度の価値を高めるための積極的なプロモーション、②博物館活動の質を高めるための体制整備、③博物館人材養成・質の向上に資する研修等の実施など、博物館の活動を後押しする基盤を構築する。

- 件数・単価：①新たな登録制度の価値を高めるための積極的なプロモーション 2件×10百万円（組織改革・専門人材育成プログラムの開発・実証等）
- ②博物館活動の質を高めるための体制整備 1件×18百万円（新制度に伴う相談業務等）
- ③博物館人材養成・質の向上に資する研修等の実施 50百万円（学芸員の在外派遣、海外キュレーターの招へい方策の検討等） 他

アウトプット(活動目標)

- 支援した博物館による課題解決や博物館の新たな価値創出の取組の数

令和4年	令和5年	令和6年
50	35	35

- 博物館人材養成・質の向上に資する研修等に参加する数

令和4年	令和5年	令和6年
430	430	430

アウトカム(成果目標)

初期（令和7年頃）

事業による取組への支援と横展開、博物館職員への研修を通じ、地域の主体や博物館同士の連携による課題解決や価値創出に取り組む博物館が増加。（達成度50%）

中期（令和10年頃）

登録博物館及び指定施設での取組の浸透。（達成度100%）

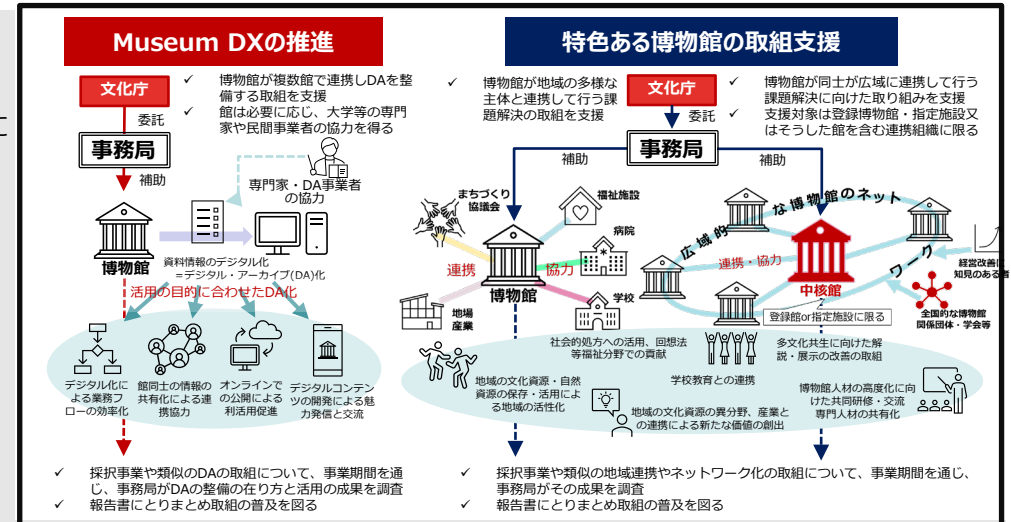
長期（令和15年頃）

登録・指定館が増加するとともに取組がさらに多くの館園に広がる。

インパクト(国民・社会への影響)

博物館界全体に、課題解決に向けた地域等との連携や新たな価値創出の取組が浸透することで広く国民に博物館の社会的価値が認知される、

博物館への官民からの更なる支援につながり、博物館の活動基盤が強化されることで、博物館がより充実したサービスを国民に提供し、もって国民の教養や創造活動に資することができるようになる「好循環」が形成される。



文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業

令和5年度予算額
(前年度予算額)

1,875百万円
2,070百万円)



背景・課題

文化の振興、観光の振興、地域の活性化の好循環の実現にあたっては、文化についての理解を深める機会の拡大及び国内外からの観光旅客の来訪促進が重要。文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進するため、文化観光推進法に基づき主務大臣により認定された計画に基づく事業に対して支援を行う。

事業内容

- 事業実施期間：令和2年度～

- ① 文化観光拠点としての機能強化に資する事業に対する支援
- ② 地域における文化観光の総合的かつ一体的な推進に資する事業に対する支援

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進するため、文化観光推進法に基づき主務大臣により認定された計画に基づく事業に対して支援を行う。

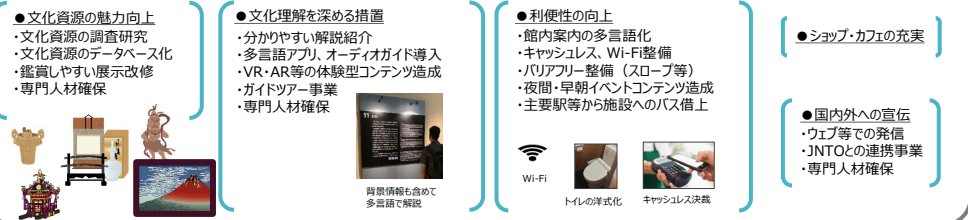
<1,750百万円（50箇所程度）>

- ③ 計画の推進等のための支援

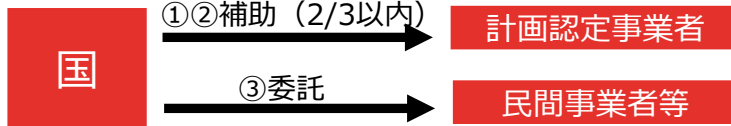
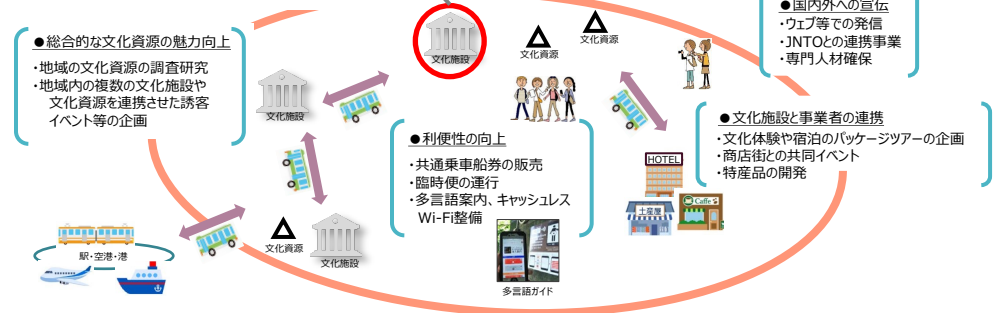
専門家の派遣、好事例の収集・分析、取組事例の横展開のためのセミナー等を実施。

<125百万円>

拠点計画（文化観光拠点施設）において実施する事業のイメージ



地域計画において実施する事業のイメージ



アウトプット(活動目標)

- 文化観光推進事業者と連携して補助対象事業を実施する事業者数の増加

アウトカム(成果目標)

初期（令和6年度頃）
来訪者満足度に関する目標の達成度（達成度80%）

中期
充実したコンテンツの造成によりリピーターの増加及びポストコロナにおけるインバウンドの効果等による来訪者の増加

長期
より多くの来訪者が文化観光拠点・地域において、魅力ある文化について理解を深めること

インパクト(国民・社会への影響)、目指すべき姿

博物館等の文化拠点としての機能強化や地域における文化観光の総合的かつ一体的な推進を通じて、「文化振興・観光振興・地域活性化」の好循環を創出

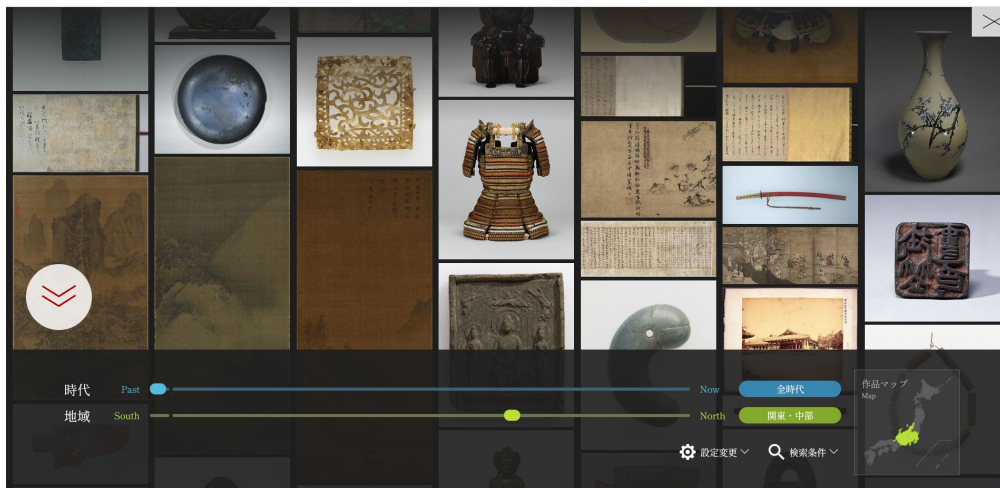
コンセプト：「文化財との新しい出会いを提供」

広く一般に向けた文化財情報への入り口として、直接的な情報検索の利便向上だけでなく、利用者の興味・関心の向上や知的好奇心の喚起に資するポータルサイトを目指します。

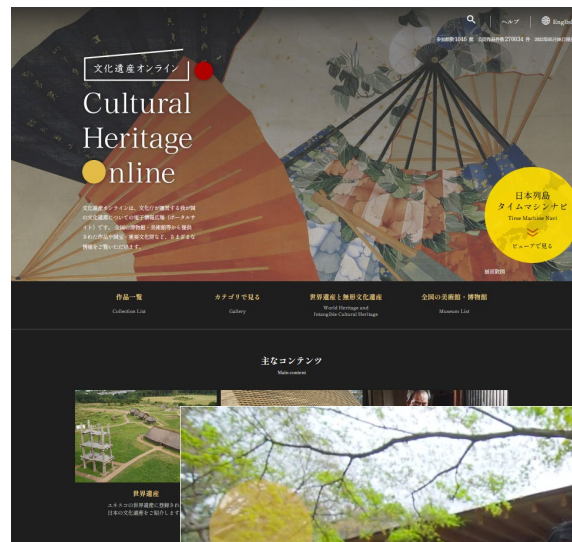
(文化遺産オンライン： <https://bunka.nii.ac.jp/>)

(紹介動画： https://www.youtube.com/playlist?list=PL_ndIdJX38cCdA27IHioTOk9n9hen_D0A)

- スマホ・タブレット対応
- デザイン、ビジュアルの刷新
- デジタルビューア機能「日本列島タイムマシンナビ」の導入
- 英語表記の追加



(日本列島タイムマシンナビ)



(トップページ)



(紹介動画)

- 「文化遺産オンライン」は、**全国の博物館・美術館等に収蔵される文化遺産に関する情報**を、指定・未指定を問わず広く収集し、**検索・閲覧できるポータルサイト**です。我が国に所在する文化遺産情報の総覧を可能とすることを目指し、文化庁と国立情報学研究所が共同で運営しています。
- 文化庁では、**文化遺産オンラインへ情報を登録していただける博物館・美術館等を広く募集**しています。**所蔵品の情報・写真**はもちろん、**博物館のお知らせ・イベント情報を掲載することが可能**ですので、所蔵品をホームページで公開したいが経費等の問題で難しい場合や、展覧会等の情報を広く発信したい場合など、様々な用途に活用できます。是非ご登録ください。（<https://bunka.nii.ac.jp/>）

（イメージ図）

検索・閲覧



◆ 所蔵作品の情報

情報を提供する博物館・美術館の所蔵品を含め、文化遺産オンラインの全ての情報を検索できます。

- 登録件数 : 276,799件
- 所蔵館数 : 203館
- アクセス数 : 337万回/年間

◆ 美術館・博物館の情報

全国の美術館・博物館の名称、所在地、開館時間、紹介文、館サイトURL等の情報を掲載しています。

- 掲載館数 : 1047館

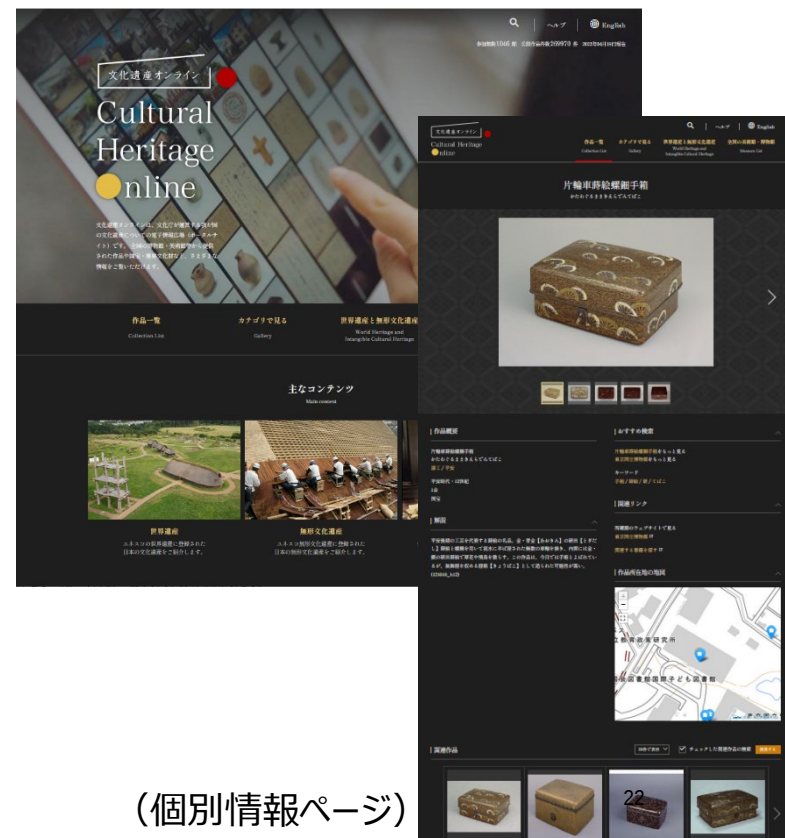
※数値はいずれも令和5年5月時点



博物館・美術館

情報登録

（トップページ）



（個別情報ページ）

登録館別サイトの作成機能

- 文化遺産オンラインへ参加している博物館・美術館が、**館ごとの個別ページを作成できる機能**です。
- 各博物館・美術館からのお知らせや所蔵品の検索が、個別のページでより簡単にできるようになります。予め用意されたテンプレートデザインから選択することで、**簡単なステップ**で、館独自のページが作成できます。また、文化遺産オンラインのサーバを利用するため、**各館には維持管理コストがかかりません。各館の独自ホームページとしても活用可能**です。
- 御関心があれば、まずは文化遺産オンライン（<http://bunka.nii.ac.jp/>）へ登録を！

※館別サイトは文化遺産オンラインへ所蔵品情報を掲載している館が利用できる機能です。登録済み施設の利用に関する問合せは、online@mext.go.jpまで。

(イメージ図)



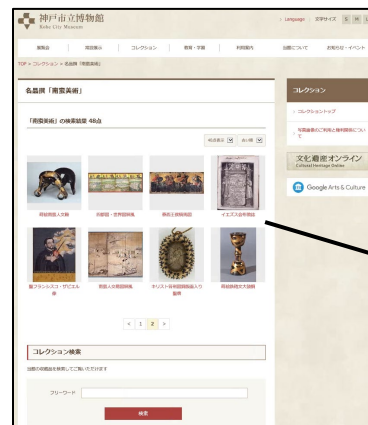
日本語⇄英語
切替機能

所蔵作品の
検索機能

イベントの
お知らせ表示

外部連携機能（検索用API）

文化遺産オンラインの外部連携機能（検索用API）を活用することで、独自にデータベースを整備することなく、**文化遺産オンラインに登録した作品情報を自館のホームページ等で公開、閲覧・検索できるサービスを提供**しています。



自館ホームページ等で作品情報を公開
（検索も可能）

引用：神戸市立博物館ウェブサイト (<https://www.kobecitymuseum.jp/>)

ジャパンサーチとの連携

文化遺産オンラインは、文化財分野の「つなぎ役」として、ジャパンサーチ※とデータ連携を行っています。**登録した情報はジャパンサーチでも閲覧・検索可能**になるため、所蔵品の情報を広く公開することができます。

※書籍等分野、文化財分野、メディア芸術分野など、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携して、我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる「国の分野横断型統合ポータル」



文化遺産オンラインに登録し、本サイトを是非ご活用ください。

— 美術館・博物館の再興を通じた心の復興 —

1. 事業概要

「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針（令和3年3月9日閣議決定）

Ⅱ. 「復興・創生期間」後の基本方針 1. 復興の基本姿勢及び各分野における取組

（1）地震・津波被災地域

被災地の自立に向けて、引き続き、「まちに人が戻る」ことを目指すのみならず、先進技術の導入や地域資源の活用等により、産業・生業や教育・研究を振興し、交流人口・関係人口や移住者の拡大を図り、「新しい東北」として掲げた魅力あふれる地域を創造することが望まれる。

東日本
大震災

汚泥や塩水等、これまでに
経験のない修理作業に直面



東松島市埋蔵文化財収蔵庫

2. 修理作業の例

●修理（脱塩、汚泥の除去）



●燻蒸、真空凍結乾燥



●汚染物質の計測、分析



美術館・博物館における機能・役割の回復、再興した美術館・博物館への返却

博物館資料の復興による地域創造(第2期復興・創生期間)

■事業目的

東日本大震災により被災した美術館・博物館の再興を図ることにより、東日本大震災からの復興に資することを目的とする。

■補助対象事業

被災資料を修理するための事業

■補助事業者

東日本大震災に対処するための特別の財政援助及び助成に関する法律（平成23年法律第40号）第2条第2項に規定する特定被災地方公共団体である市町村を管轄する道県。

■補助金額

補助対象経費の50%

博物館に対する税制上の優遇措置について

1. 登録博物館に関する優遇措置（国税関係）

博物館事業の実施主体に係る優遇措置	
博物館※において標本等として用いる物品を輸入し又は寄贈された場合の関税の免除	博物館等が、標本等として用いる物品を輸入した場合、又は当該物品を寄贈された場合には、関税は免除される。 ※国及び地方公共団体が設置する博物館は登録を受けているかどうかにかかわらず対象
博物館を支援する者に係る優遇措置	
博物館への贈与及び遺贈のみなし譲渡所得の非課税	個人が財産を公益社団・財団法人、特定一般法人その他の公益を目的とする事業を行う法人に贈与又は遺贈をする場合で、一定の要件を満たすものとして国税庁長官の承認を受けた場合には、当該財産の贈与又は遺贈はなかったものとみなされ、みなし譲渡所得課税の規定は適用されず、所得税は課税されない。
博物館※に寄託している登録美術品についての相続税の物納順位の特例	納付すべき相続税額を延納によっても納付することが困難な場合、美術品の美術館における公開の促進に関する法律に規定する登録美術品（相続時に既に登録を受けているものに限る。）を相続税の物納に充てることができる。その際、物納の優先順位が通常の出産については第三位であるが、当該美術品については、第一位に繰り上げられる。 ※ 博物館相当施設も対象
博物館※に寄託している特定美術品についての相続税の納税猶予及び免除の特例	文化財保護法に基づく保存活用計画を策定し、国の認定を受けて美術館等に寄託・公開された重要文化財・登録有形文化財（美術工芸品）については相続税の納税猶予の特例が認められている。 ※ 博物館相当施設も対象
博物館の事業に供するための土地収用に伴い土地等を譲渡した場合の譲渡所得の特別控除	収用等に伴い、博物館を設置運営する法人に土地等を譲渡する場合には、譲渡所得の特別控除又は代替資産の取得に伴う特例の適用を受ける。

2. 博物館に関する優遇措置（地方税関係）

博物館事業の実施主体に係る優遇措置	
博物館の事業に対する事業所税の非課税	博物館を設置する法人の博物館の事業に対する事業所税が非課税とされている。
博物館において直接その用に供する固定資産に対する固定資産税・都市計画税の非課税	博物館を設置する公益社団・財団法人及び宗教法人は、直接その用に供する固定資産に対する固定資産税・都市計画税が非課税とされている。
博物館において直接その用に供する不動産の取得に対する不動産取得税の非課税	博物館を設置する公益社団・財団法人及び宗教法人は、直接その用に供する不動産の取得に対する不動産取得税が非課税とされている。
博物館の設置を主の目的とする者に対する法人住民税の非課税	博物館の設置を主の目的とする公益社団・財団法人は法人住民税が非課税とされている（収益事業を行う場合はこの限りでない）。

優遇措置のある税目	登録博物館					指定施設
	公立	私立				
		公益法人	宗教法人	一般社団・ 財団法人	民間会社等	
法人住民税の非課税	－	○				
固定資産税の非課税	－	○	○			
都市計画税の非課税	－	○	○			
不動産取得税の非課税	－	○	○			
事業所税の非課税	－	○	○	○	○	

3. 登録の有無にかかわらず博物館を設置する主体により受けられる優遇措置

博物館を支援する者に係る優遇措置	
特定公益増進法人に対する寄付金の特例	独立行政法人、博物館等の設置及び管理を主目的とする地方独立行政法人、公益社団・財団法人、学校法人、社会福祉法人等に対する寄附金は、特定公益増進法人に対する寄附金として、寄附金控除又は寄附金損金算入の特例の適用を受ける。

美術品補償制度について

1. 美術品補償制度とは

- 美術品補償制度とは、展覧会において海外等から借り受けた美術品に、万一損害が発生した場合に、その損害を国が補償する制度。
- 第177回通常国会において成立した「展覧会における美術品損害の補償に関する法律」（以下「美術品補償法」という。）に基づき、制度が創設された。（平成23年6月施行）

2. 制度創設の背景

- 近年、美術品の評価額の高騰や保険料率の上昇のため、展覧会主催者の損害保険料の負担が大きくなっている。このため、海外の優れた美術品を取り扱う大規模展覧会や地方巡回展の開催が困難になるとともに、展覧会の規模の縮小や開催の断念などの問題が顕在化している。
- このような状況を踏まえ、質の高い展覧会が、地方美術館を含め広く全国で開催され、優れた美術品を多くの国民が鑑賞できるよう、借り受けた美術品の損害を政府が補償することが必要。

3. 「展覧会における美術品損害の補償に関する法律」の概要

- 展覧会のために借り受けた美術品の損害につき、政府がその損害を補償する契約を締結できることを定める。
- 損害総額の一定部分は主催者が負担、それを超える部分を国が補償する。（ただし、補償上限額（＝950億円）を定める）。
《主催者の負担分》一般的な損害：50億円 地震・テロ等による損害：1億円
- 毎年度の補償契約の締結の限度額を予算（予算総則）で定める。
- 文化審議会の意見聴取及び財務大臣協議を経て、対象となる展覧会を決定する。

4. 美術品補償制度の運用状況

- 令和5年7月1日現在、48件の展覧会の補償契約を締結。（別紙参照）
- 補償対象展覧会は、数か月ごとに審査を行い決定する。
（募集日程は文化庁 HP（http://www.bunka.go.jp/bijutsukan_hakubutsukan/hosyoseido/index.html）参照）。
- 令和4年度予算の予算総則において、補償契約締結限度額として3,227億円を計上している。

5. 美術品補償制度の在り方に関する検討

- 平成27年6月30日に閣議決定された規制改革実施計画において、民間事業者等の要望に応える見直しとして、展覧会における美術品損害の補償契約の手続き合理化について、「美術品補償制度適用のための文部科学大臣宛ての申請書類について、2回目以降の申請においては、施設や設備に関する書類の提出を一定期間免除するなどの簡略化をする方向で検討し、必要な措置を講ずる」ことが定められ、平成28年3月29日付けで施行規則の一部改正を行った。
- また、平成29年度に制度に係る調査研究（国内の展覧会の実施状況、海外における美術品補償制度の運用状況に関する調査等）を実施し、その結果を踏まえ、制度等の改善方策について検討している。

美術品補償制度適用展覧会の一覧

展覧会情報		
No.	展覧会名	会場(会期)
1	ブラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影	国立西洋美術館 (平成23年10月22日～平成24年 1月29日)
2	生誕100年 ジャクソン・ポロック展	愛知県美術館 (平成23年11月11日～平成24年 1月22日) 東京国立近代美術館 (平成24年 2月10日～平成24年 5月 6日)
3	特別展 北京故宮博物院200選	東京国立博物館 (平成24年 1月 2日～平成24年 2月19日)
4	カミーユ・ピサロと印象派 永遠の近代	宇都宮美術館 (平成24年 3月24日～平成24年 5月27日) 兵庫県立美術館 (平成24年 6月 6日～平成24年 8月19日)
5	セザンヌ パリとプロヴァンス	国立新美術館 (平成24年 3月28日～平成24年 6月11日)
6	国立トレチャコフ美術館所蔵 レービン展	Bunkamura ザ・ミュージアム (平成24年 8月 4日～平成24年10月 8日) 浜松市美術館 (平成24年10月16日～平成24年12月24日) 姫路市立美術館 (平成25年 2月16日～平成25年 3月30日) 神奈川県立近代美術館 葉山 (平成25年 4月 6日～平成25年 5月26日)
7	リヒテンシュタイン 華麗なる公爵家の秘宝	国立新美術館 (平成24年10月 3日～平成24年12月23日) 高知県立美術館 (平成25年 1月 5日～平成25年 3月 7日) 京都市美術館 (平成25年 3月19日～平成25年 6月 9日)
8	特別展 中国 王朝の至宝	東京国立博物館 (平成24年10月10日～平成24年12月24日) 神戸市立博物館 (平成25年 2月 2日～平成25年 4月 7日) 名古屋市博物館 (平成25年 4月24日～平成25年 6月23日) 九州国立博物館 (平成25年 7月 9日～平成25年 9月16日)
9	ラファエロ	国立西洋美術館 (平成25年 3月 2日～平成25年 6月 2日)
10	フランシス・ベーコン展	東京国立近代美術館 (平成25年 3月 8日～平成25年 5月26日) 豊田市美術館 (平成25年 6月 8日～平成25年 9月 1日)
11	「印象派を超えて―点描の画家たち ～ゴッホ、スーラからモンドリアンまで」	国立新美術館 (平成25年10月 4日～平成25年12月23日) 広島県立美術館 (平成26年 1月 2日～平成26年 2月16日) 愛知県美術館 (平成26年 2月25日～平成26年 4月 6日)
12	特別展「上海博物館 中国絵画の至宝」	東京国立博物館 (平成25年10月 1日～平成25年11月24日)
13	オルセー美術館展 印象派の誕生 ―描くことの 自由―	国立新美術館 (平成26年 7月 9日～平成26年10月20日)
14	特別展「台北 國立故宮博物院―神品至宝―」	東京国立博物館 (平成26年 6月24日～平成26年 9月15日) 九州国立博物館 (平成26年10月 7日～平成26年11月30日)
15	現代美術のハードコアはじつは世界の宝である 展 ―ヤゲオ財団コレクションより	東京国立近代美術館 (平成26年 6月20日～平成26年 8月24日) 名古屋市美術館 (平成26年 9月 6日～平成26年10月26日) 広島市現代美術館 (平成26年12月20日～平成27年 3月 8日) 京都国立近代美術館 (平成27年 3月31日～平成27年 5月31日)
16	ホイットラー展	京都国立近代美術館 (平成26年 9月13日～平成26年11月16日) 横浜美術館 (平成26年12月 6日～平成27年 3月 1日)

展覧会情報		
No.	展覧会名	会場(会期)
17	ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の 真髄	国立新美術館 (平成27年 2月21日～平成27年 6月 1日) 京都市美術館 (平成27年 6月16日～平成27年 9月27日)
18	マグリット展	国立新美術館 (平成27年 3月25日～平成27年 6月29日) 京都市美術館 (平成27年 7月11日～平成27年10月12日)
19	マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展 ―「印象、日の出」から「睡蓮」まで―	東京都美術館 (平成27年 9月19日～平成27年12月13日) 福岡市美術館 (平成27年12月22日～平成28年 2月21日) 京都市美術館 (平成28年 3月 1日～平成28年 5月 8日) 新潟県立近代美術館 (平成28年 6月 4日～平成28年 8月21日)
20	ブラド美術館展 ―スペイン宮廷 美への情熱―	三菱一号館美術館 (平成27年10月10日～平成28年01月31日)
21	特別展 黄金のアフガニスタン ―守りぬかれたシルクロードの秘宝―	九州国立博物館 (平成28年 1月 1日～平成28年 2月14日) 東京国立博物館 (平成28年 4月12日～平成28年 6月19日)
22	オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展	国立新美術館 (平成28年 4月27日～平成28年 8月22日)
23	大阪市立美術館開館80周年記念 日本書芸 院創立70周年記念 特別展「王羲之から空海へ ―日中の名筆 漢字とかなの競演」	大阪市立美術館 (平成28年 4月12日～平成28年 5月22日)
24	ゴッホとゴーギャン展	東京都美術館 (平成28年10月8日～平成28年12月18日) 愛知県美術館 (平成29年1月3日～平成29年3月20日)
25	オルセーのナビ派展:美の預言者たち ―ささ やきとざわめき	三菱一号館美術館 (平成29年2月4日～平成29年5月21日)
26	ジャコメッティ展	国立新美術館 (平成29年6月14日～平成29年9月4日) 豊田市美術館 (平成29年10月14日～平成29年12月24日)
27	ゴッホ展 巡りゆく日本の夢	北海道立近代美術館 (平成29年8月26日～平成29年10月15日) 東京都美術館 (平成29年10月24日～平成30年1月8日) 京都国立近代美術館 (平成30年1月20日～平成30年3月4日)
28	北斎とジャポニスム	国立西洋美術館 (平成29年10月21日～平成30年1月28日)
29	至上の印象派展 ビュールレ・コレクション	国立新美術館 (平成30年2月14日～平成30年5月7日) 九州国立博物館 (平成30年5月19日～平成30年7月16日) 名古屋市美術館 (平成30年7月28日～平成30年9月24日)
30	ブラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光	国立西洋美術館 (平成30年2月24日～平成30年5月27日) 兵庫県立美術館 (平成30年6月13日～平成30年10月14日)
31	ルーヴル美術館展 肖像芸術 ― 人は人をどう表現してきたか	国立新美術館 (平成30年5月30日～平成30年9月3日) 大阪市立美術館 (平成30年9月22日～平成31年1月14日)
32	ピエール・ボナール展	国立新美術館 (平成30年9月26日～平成30年12月17日)

展覧会情報		
No.	展覧会名	会場(会期)
35	ラファエル前派の軌跡展	三菱一号館美術館 (平成31年3月14日～令和元年6月9日) 久留米市美術館 (令和元年6月20日～令和元年9月8日) あべのハルカス美術館 (令和元年10月5日～令和元年12月15日)
36	クリムト展	東京都美術館 (平成31年4月23日～ 令和元年7月10日) 豊田市美術館 (令和元年7月23日～令和元年10月14日)
37	ウィーン・モダン展	国立新美術館 (平成31年4月24日～令和元年8月5日) 国立国際美術館 (令和元年8月27日～令和元年12月8日)
38	松方コレクション展	国立西洋美術館 (令和元年6月11日～令和元年9月23日)
39	コートールド美術館展	東京都美術館 (令和元年9月10日～令和元年12月15日) 愛知県美術館 (令和2年1月3日～令和2年3月15日) 神戸市立美術館 (令和2年3月28日～令和2年6月21日) ※感染症の影響により、以下の通り変更 東京都美術館 (変更なし) 愛知県美術館 (令和2年1月3日～令和2年3月1日) 神戸市立美術館 (開催中止)
40	オランジェリー美術館コレクション	横浜美術館 (令和元年9月21日～令和2年1月13日)
41	ピーター・ドイグ展	東京国立近代美術館 (令和2年2月26日～令和2年10月11日) ※感染症の影響による中止期間: 令和2年2月29日～令和2年6月11日
42	ゴッホ展―響きあう魂 ヘレーネとフィンセント	東京都美術館 (令和3年9月18日～令和3年12月12日) 福岡市美術館 (令和3年12月23日～令和4年2月13日) 名古屋市美術館 (令和4年2月23日～令和4年4月10日)
43	スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち	東京都美術館 (令和4年4月22日～令和4年7月3日) 神戸市立博物館 (令和4年7月16日～令和4年9月25日) 北九州市立美術館 (令和4年10月4日～令和4年11月20日)
44	歿後50年 ピカソ 青の時代を超えて Picasso: The Blue Period and Beyond	ポーラ美術館 (令和4年9月17日～令和5年1月15日) ひろしま美術館 (令和5年2月4日～令和5年5月28日)
45	四一ヴァル美術館展 愛を描く	国立新美術館 (令和5年3月1日～令和5年6月12日) 京都市京セラ美術館 (令和5年6月27日～令和5年9月24日)
46	旧オポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才	東京都美術館 (令和5年1月26日～令和5年4月9日)
47	マティス展 Henri Matisse:The Path to Color	東京都美術館 (令和5年4月27日～令和5年8月20日)

展覧会情報		
No.	展覧会名	会場(会期)
48	デイヴィッド・ホックニー展	東京都現代美術館 (令和4年7月15日～令和4年11月5日)

海外の美術品等の我が国における公開の促進に関する法律について

1. 立法の背景

- 海外の民間美術館や個人等が美術品等を貸出すに当たって、強制執行等の禁止措置が担保されていることを条件とされ、日本の美術館等が借り受けることが困難な事例が発生している。(多くの先進国では強制執行等の禁止の措置が既に整備されている。)
※外国政府等所有の美術品等については、平成21年に主権免除法が成立し、我が国の民事裁判権の対象外となっている。
- このような状況を踏まえ、海外の美術品等に対する強制執行等の禁止の措置を定めることが必要とされ、第177回通常国会において議員立法により成立（平成23年4月公布、9月施行）。

2. 法律の概要

- 我が国において公開される海外の美術品等のうち、要件に該当するものとして文部科学大臣が指定したものに対しては、強制執行、仮差押え及び仮処分を禁止。
※美術品のほか、「化石」や「希少な岩石、鉱物、植物及び動物の標本」も対象となる。
- 指定に当たっては外務大臣への協議が必要。
- 指定した美術品等に係る情報については、官報において公示。

3. 制度を利用しようとする場合

- 本制度に申請しようとする場合は、「海外の美術品等」の制度の適合状況、申請書の記載方法、申請書の提出時期等について、美術品等を借用開始する3か月前まで（指定が必要な美術品等の数が10点を超える場合は6か月前まで）に、文化庁に相談が必要（詳細は以下の文化庁HPを参照）。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/bunkazai/kaigaibijutsu_sokushin/

4. 制度の運用状況

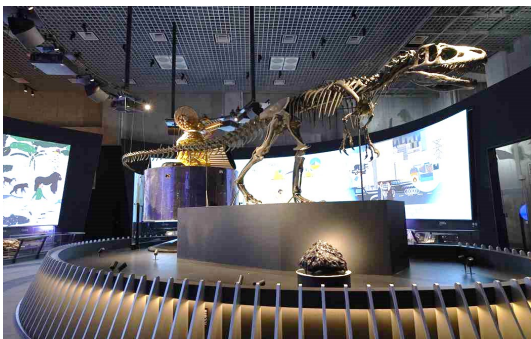
- 令和5年6月1日現在、124件の海外美術品等の指定を実施。

独立行政法人国立科学博物館

使命・役割
独立行政法人国立科学博物館は、博物館を設置して、自然史に関する科学その他の自然科学及びその応用に関する調査及び研究並びにこれらに関する資料の収集・保管（育成を含む）及び公衆への供覧等を行うことにより、自然科学及び社会教育の振興を図ることを目的とする。

中期目標
①自然史及び科学技術史の調査・研究
②ナショナルコレクションの構築・継承及び活用
③人々の科学リテラシーの向上を目指した展示・学習支援

各施設の概要

施設	上野本館		筑波地区（筑波研究施設・筑波実験植物園）		附属自然教育園	
						
設置	明治10年（1877年） （教育博物館）		昭和51年（1976年）		昭和37年（1962年）	
建物延べ面積	33,612㎡		44,140㎡		1,953㎡	
	うち展示面積 11,355㎡		うち展示面積 3,406㎡		うち展示面積 264㎡	
敷地面積	13,223㎡		140,022㎡		192,382㎡	
所在地	東京都台東区上野公園7-20		茨城県つくば市天久保4-1-1		東京都港区白金台5-21-5	
役割・任務	国立科学博物館は、日本で最も歴史のある博物館の一つであり、自然史・科学技術史に関する国立の唯一の総合科学博物館である。良質で豊富な実物標本資料を中心に、フロアごとに展示テーマを設け、メッセージ性を重視することにより、常設展示のメインメッセージである「人類と自然の共存をめざして」を体系的に、わかりやすく伝えられるような展示構成をしている。		筑波研究施設は、自然史および科学技術史に関する中核的な研究機関として、動物、植物、岩石・鉱物、古生物、人類、科学技術史等を専門分野とする研究者を擁し、5つの研究部（動物・植物・地学・人類・理工学）と3つの研究センター（産業技術史資料情報センター・標本資料センター・分子生物多様性研究資料センター）を中心に、様々な機関と連携して調査研究を展開している。筑波実験植物園では、日本の代表的な植生を再現し、世界の熱帯や乾燥地に生育する植物を栽培するなど、3000種を超える植物が展示されている。		自然教育園は、文化財保護法に基づき天然記念物及び史跡に指定されている。園内では暖温帯の原生的な森林である常緑広葉樹林、武蔵野の雑木林、谷の湿地などが保存されており、多くの動植物を観察し生態系のしくみを学ぶことができる。	
展示資料数 (R5. 3. 31時点)	25,600		85,856（非公開を含めた植栽数）		-	
来館者数 (R4年度)	1,842,929人		91,265人		131,148人	
職員数 (R5. 4. 1時点)	65人		71人		7人	

登録標本数 (R5. 3. 31時点)	5,004,294		
役員	館長 篠田 謙一	理事 栗原 祐司	監事（非常勤） 高山 昌茂、池田 千絵
職員数	令和5年度（R5. 4. 1時点）		
	143人		

↓補正の交付金18をプラス							単位：百万円		
国からの財政支出	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
運営費交付金	2,765	2,768	2,797	2,729	2,698	2,732	2,925	2,546	2,840
施設整備費補助金	0	0	0	0	0	133	0	0	0
自己収入（展示事業等収入）	416	420	424	469	589	710	393	543	710

予算額	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	3,181	3,188	3,301	3,576	3,337	3,575	3,318	3,089	3,550

※補正での施設整備費									
（交付決定の年度および交付決定額）			80	378	50	1,366	976	238	

令和5年度独立行政法人国立科学博物館 展覧会予定一覧

令和5年										令和6年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
3/14		6/18	7/15			10/9	10/28			2/25	3月	
特別展「恐竜博2023」			特別展「海 ―生命のみなもと―」				特別展「和食」			特別展「哺乳類3」		
3/14	4/9	4/25		8/16	9/1		11/26				3/12	
企画展 「ボタニカルアートで 楽しむ日本の桜 ―太田洋愛原画展―」		企画展「科博の標本・資料でたどる日本の哺乳類学の軌跡」			関東大震災100年企画展「震災からのあゆみ ―未来へつなげる科学技術―」(仮称)			企画展「知られざる海生無脊椎動物の世界」(仮称)				
			7/11	8/20	日本・ペルー修好150年企画展「国立科学博物館のアンデス文明の展覧会」(仮称)							
筑波実験植物園	4/15	4/23		6/18	6/25	7/21	8/20	10/21	10/29	1/27	2/12	
	コレクション特別公開 「さくらそう品種展」		協力団体展示 「つくば夏の洋蘭展」		企画展 「夏休み植物園フェスタ」		企画展 「きのこ展」		「第40回植物画コンクール 入選作品展」			
		4/29	6/4			9/16	9/24				3/10	3/17
	ミニ企画展「牧野富太郎と植物を観る眼」				シダ・ミュージアム-つくばシダ展-				企画展 「つくば蘭展」			
		4/29	6/4	コレクション特別公開「クレマチス園公開」								
附属自然教育園	3/18	4/23		7/15		9/3		11/17		1/28		
	企画展「都市蝶(写真展)」		企画展「<フィールドとつながる絵本原画展>ぬけがら」			企画展「自然教育園のカワセミ ～カワセミ観察小屋から～」						
		4/27		7/9		9/7	10/1			2/1	3/17	
	企画展「2023 自然教育園オオタカの子育て」					企画展「第39回植物画コンクール入選作品展-受賞作品-」			企画展「自然教育園の四季 といきものたち(写真展)」			
		4/27		7/9		9/13	9/18				3/23	4/21
企画展「植生管理の仕事人～自然教育園の道具たち～」					企画展「自然教育園 らん展(仮称)」			企画展 「都市蝶(写真展)」				
						10/5	11/12					
						企画展「自然教育園の四季といきものたち(写真展)」						

独立行政法人 国立美術館

使命・役割
独立行政法人国立美術館は、美術館を設置して、美術に関する作品その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的とする。

中期目標
①美術振興の中心的拠点として、多様な鑑賞機会の提供、美術創造活動の活性化の推進など、現代の美術を取り巻く状況の変化に対応した多彩な活動を展開し、我が国の美術振興に寄与
②我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・活用・継承
③我が国におけるナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

施設	東京国立近代美術館		京都国立近代美術館	国立映画アーカイブ	国立西洋美術館	国立国際美術館	国立新美術館
	本館	国立工芸館					
							
設置	昭和27年6月6日	分館設置 昭和52年11月15日 移転開館 令和2年10月25日	分館設置 昭和38年3月1日 独立 昭和42年6月1日	分館設置 昭和45年5月27日 独立 平成30年4月1日	昭和34年4月	昭和52年5月20日	平成18年7月1日
建物 延べ面積	19,050.6㎡ うち展示面積 4,459.0㎡	3,072.22㎡ うち展示面積 703.76㎡	9,761㎡ うち展示面積 2,604㎡	16,479㎡ うち展示面積 1,365㎡	17,369㎡ うち展示面積 4,420㎡	13,487㎡ うち展示面積 3,811㎡	49,709㎡ うち展示面積 14,000㎡
所在地	東京都千代田区 北の丸公園3-1	石川県金沢市 出羽町3-2	京都府京都市左京区 岡崎円勝寺町	東京都中央区 京橋3-7-6	東京都台東区 上野公園7-7	大阪府大阪市北区 中之島4-2-55	東京都港区 六本木7-22
役割・ 任務	近・現代の美術、工芸に関する作品その他の資料の収集・保管・展示・調査研究活動等を実施。		特に京都・西日本を重点に 近・現代の美術、工芸に関する作品その他の資料の収集・保管・展示・調査研究活動等を実施。	映画文化振興の中核的機関として、映画に関する収集・保存・活用・上映・調査研究活動等を実施。	仏政府から日本国政府に寄贈返還された松方コレクションを中心に西洋美術に関する作品及び資料の収集・保管・展示・調査研究活動等を実施。	日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、主に1945年以降の現代美術に関する作品その他の資料の収集・保管・展示・調査研究活動等を実施。	国立のアートセンターとして、全国的活動を行う美術団体の展覧会等への会場の提供及び新しい美術動向や現代作家を紹介する自主企画展の開催、国際発信等を実施。
収蔵作品 ※1	13,897件	4,161件	14,858件	105,729件	6,704件	8,265件	
入館者数 ※2	552,805人	66,300人	282,073人	98,393人	939,047人	171,033人	614,502人
館長	小松 弥生	唐澤 昌宏	福永 治	岡島 尚志	田中 正之	島 敦彦	逢坂 恵理子
職員数 ※3・4	12人 (22人)	9人	17人	14人	20人	15人	20人

国立アートリサーチセンター（法人本部に設置）		
	役割・ 任務	国内外の美術館、研究機関をはじめ関係者と連携・協力し、アート振興の基盤整備及び国際発信と持続的な発展に寄与するため、国立美術館のナショナルセンターとしての機能の強化、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティストの支援などに取り組み、我が国の美術館活動全体の充実に寄与する。
設置		
所在地		
センター長		
職員数 ※3・5	11人 (19人)	

役員	理事長	理事	監事（非常勤）
	逢坂 恵理子	（常勤）森 孝之 （非常勤）渡部 葉子	
法人本部職員数 ※3・6	24人	職員数※3 計142人	

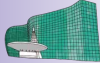
国からの財政支出等	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
運営費交付金	7,537	7,539	7,392	7,552	8,511	8,423	7,739
施設整備費補助金	2,010	1,810	1,381	1,381	100	400	400
自己収入（展示事業等収入）	1,210	1,295	1,581	1,581	1,102	1,303	1,504

予算額	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	11,407	11,294	11,004	11,164	10,364	10,776	10,293

※平成29年度から、予算額には上記3項目に加え寄附金収入を含む。							
※補正予算による施設整備費（百万円）							
（交付決定の年度及び交付決定額）	168	709	1,256	0	1,202	676	

- ※1 収蔵作品は令和5年4月1日現在の数（寄託作品を含む。）
※2 入館者数は令和4年度実績（主催事業（所蔵作品展、企画展、国立映画アーカイブ上映会・展覧会）の入館者数）
※3 職員数は令和5年4月1日現在の常勤職員の人数。
※4 東京国立近代美術館の職員数の括弧内は法人本部等を本務とし、東京国立近代美術館を兼務する者（外数）。
※5 国立アートリサーチセンターの職員数の括弧内は法人本部等を本務とし、国立アートリサーチセンターを兼務する者（外数）。
※6 法人本部職員数は、国立アートリサーチセンターを本務とする職員を含まない。

2023年度 企画展年間スケジュール 多彩な展覧会をいつでもお楽しみいただけます。この他、各館の所蔵作品による展覧会も開催しています(国立新美術館を除く)。

	2023年										2024年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東京国立近代美術館 本館 	3/17 東京国立近代美術館70周年記念展 「重要文化財の秘密」 3/17 修復特集	5/14	6/13 ガウディとサグラダ・ファミリア展(仮称)	9/10			10/6 生誕120年 棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ	12/3		2月上旬(予定) 中平卓馬展(仮称)	4月上旬(予定)		
国立工芸館 	3/21 ポケモン×工芸展—美とわざの大発見—	6/11	7/7 水のいろ、水のかたち展	9/24			10/14 三の丸尚蔵館(仮称)	11/26	12/19 印刷／版画／グラフィックデザインの断層 1957-1979	3/3 卒寿記念 人間国宝 鈴木藏展(仮称)	3月中旬 6月上旬		
国立西洋美術館 	3/18 憧れの地 プルターニュ —モネ、ゴッコン、黒田清輝らが見た異郷	6/11	7/4 スペインのイメージ:版画を通じて写し伝わるすがた	9/3			10/3 キュビズム・レボリューション(仮称)	1/28					
国立映画アーカイブ 	多様な上映会・展覧会を開催予定です。												
国立新美術館 	3/1 ルーヴル美術館展 愛を描く	6/12	7/12 テート美術館展 光—ターナー、印象派から現代へ	10/2			9/20 イヴ・サンローラン展	12/11					
京都国立近代美術館 	2/11 4/9 開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌—絵画、演劇、映画を越境する個性 1/28 4/16 リュウユ—フィンランドのテキスタイル:トゥオマス・ソバネン・コレクション	4/28 Re:スタートライン 「現代美術の動向」展シリーズ(1963-70)にみる美術館とアーティストの〈共感〉関係(仮称)	7/2	7/19 前衛陶芸の誕生 走泥社とその時代—結成前夜から1973年まで—(仮称)	9/24	10/14 京都画壇の青春 それぞれのLIFE(生)(仮称)	12/10	1/6 小林正和とその時代:ファイバー・アートの向こうへ(仮称)	3/10				
国立国際美術館 	2/4 ピカソとその時代 ベルリン国立ベルクグリーン美術館展	5/21	6月末(予定) ホーム・スイートホーム(仮称)	9月中旬(予定)	工事による全館休館:2023年10月~2024年1月(予定)					2/6(予定) 古代メキシコ —マヤ、アステカ、テオティワカン	5/6(予定)		

※情報は2022年11月現在。展覧会の詳細は決まり次第随時HPなどでお知らせいたします。※新型コロナウイルス感染症の影響により会期等に変更が加わる場合がございます。HPで最新情報をご確認の上、ご来館くださいますようお願いいたします。

アクセス

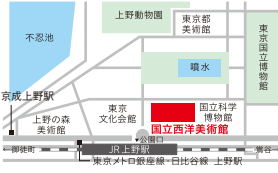
● 東京国立近代美術館 本館



● 国立工芸館



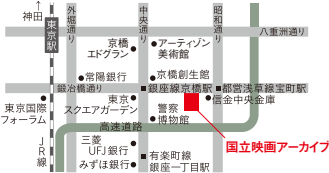
● 国立西洋美術館



● 国立新美術館



● 国立映画アーカイブ



● 京都国立近代美術館



● 国立国際美術館

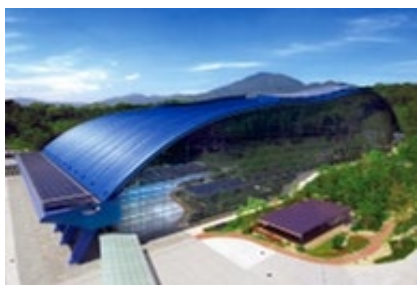
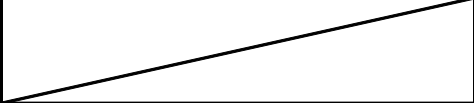


独立行政法人 国立文化財機構

使命・役割
独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的とする。

中期目標
1.有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
・有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、文化財の保存及び活用を図る。特に、文化財の次世代への保存継承に関する国民意識の涵養を図る。
2.文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究・協力事業等の実施
・文化財に関する専門的、技術的事項に関する唯一の国立研究機関として、基礎的・探究的な調査研究を継続的に行い、災害に対する多様な文化財の防災・救援のための連携・協力体制を構築し、専門的な知見から支援を行うとともに、地域の専門的人材の育成を図る。
・有形・無形の文化遺産に係る国際協働・協力に貢献する専門的機関として、国際条約等に基づく活動を積極的に推進する。

各施設の概要

施設	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	施設	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
								
設置	明治5年（1872年） （文部省博物館）	明治22年（1889年） （帝国京都博物館）	明治22年（1889年） （帝国奈良博物館）	平成17年4月1日 （開館：同10月16日）	設置	昭和5年6月28日	昭和27年4月1日	平成23年10月1日
建物延べ面積	78,471㎡	30,872㎡	19,133㎡	30,675㎡	建物延べ面積	10,516㎡	41,509㎡	244.67㎡
	うち展示面積 18,567㎡	うち展示面積 5,657㎡	うち展示面積 4,079㎡	うち展示面積 5,444㎡				
所在地	東京都台東区上野公園13-9	京都府京都市東山区茶屋町527	奈良県奈良市登大路町50	福岡県太宰府市石坂4-7-2	所在地	東京都台東区上野公園13-43	奈良県奈良市二条町2-9-1	大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁
役割・任務	我が国の総合的な博物館として、日本を中心として広く東洋諸地域にわたる文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行う。	平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行う。	仏教美術を中心とした文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行う。	日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財について収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行う。なお、事業の実施に当たっては、福岡県等と連携協力を行う。	主な事業 1 我が国及び諸外国の美術及び我が国の無形文化財の調査・研究 2 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発 3 科学技術の活用等による文化財の保存科学・修復技術に関する調査・研究 4 全国の博物館・美術館からの要請に応じた専門的指導・助言・研修 5 文化財の保存・修復に関する国際協力	1 平城宮、藤原宮、飛鳥地域の発掘調査及び出土品・遺構の調査・研究 2 遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究 3 古都所在社寺所蔵の歴史資料等の文化財の調査・研究 4 全国各地の発掘調査等に対する指導・助言及び発掘調査専門職員等に対する研修 5 飛鳥資料館・平城宮跡資料館等における調査・研究の成果の公表 6 発掘調査・遺跡の整備に関する国際協力	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究	
所蔵品（国宝） （重要文化財）	120,812件 （89件） （649件）	8,526件 （29件） （200件）	1,947件 （13件） （114件）	1,581件 （4件） （46件）	一般公開施設		飛鳥資料館(24,719人) 平城京跡資料館(39,515人) 藤原宮跡資料館(7,133人)	
来館者数	1,247,750人	245,489人	279,613人	523,200人				
館長	藤原 誠	松本 伸之	井上 洋一	島谷 弘幸（理事長）	所長	齊藤 孝正（理事）	本中 眞	町田 大輔
職員数	113人	44人	34人	27人	職員	43人	82人	4人

※収蔵品の件数は令和5年3月31日現在、入館者数は令和4年度の数。

※各館の職員数は、役員以外の館長を含む。

役員	理事長 島谷 弘幸	理事 塩見 みづ枝(R4.9.1～)、 齊藤 孝正、林田 スマ(非常勤)	監事（非常勤） 久留島 典子、稲垣 正人
	令和5年度 411人		

※職員数は令和5年4月1日現在の現員数である。

なお、各施設職員数の計に本部事務局・文化財活用センター・文化財防災センターの職員数64人を足したものである。

	単位：百万円									
国からの財政支出	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
運営費交付金	8,441	8,388	8,325	8,808	8,593	8,633	9,052	8,918	9,577	
施設整備費補助金	2,921	1,334	1,780	405	994	198	0	0	0	
自己収入（展示事業等収入）	1,323	1,475	1,576	1,677	1,931	2,090	1,032	1,329	1,626	

予算額	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	12,685	11,197	11,681	10,890	11,518	10,921	10,084	10,247	11,203	

※補正での施設整備費

（交付決定の年度および交付決定額）	0	86	1,806	473	409	123	1,176	277		
-------------------	---	----	-------	-----	-----	-----	-------	-----	--	--

令和5年度独立行政法人国立文化財機構 特別展覧会開催予定一覧

令和5年5月1日現在

	5年												6年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
東京国立博物館	3/7～5/7 特別展「東福寺」 （東京国立博物館、大本山東福寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、文化庁）		6/16～9/3 特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」 （東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社）		9/12～12/3 「横尾忠則 寒山百得」展 （東京国立博物館、読売新聞社、文化庁）		9/16～11/12 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「京都・南山城の仏像」 （東京国立博物館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京）		10/11～12/3 特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」 （東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社）						
京都国立博物館	3/25～5/21 親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞―生涯と名宝」 （京都国立博物館、朝日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿）						10/7～12/3 特別展「東福寺」 （京都国立博物館、大本山東福寺、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿）								
奈良国立博物館				7/8～9/3 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「聖地 南山城―奈良と京都を結ぶ祈りの至宝―」 （奈良国立博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪）			秋（予定） 特別展 第75回正倉院展（予定）								
九州国立博物館	4/18～6/11 特別展「アール・ヌーヴォーのガラス―ガレとドームの自然賛歌―」 （九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、RKB毎日放送、西日本新聞イベントサービス）			7/11～9/3 特別展「憧れの東洋陶磁―大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」 （九州国立博物館・福岡県、大阪市立東洋陶磁美術館、読売新聞社）			10/3～12/10 特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」 （九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、朝日新聞社）								
平城宮跡資料館		5/27～7/17 令和5年度 春期ミニ展示「よみがえる西大寺金堂院」													
藤原宮跡資料室															
飛鳥資料館	4/21～5/21 ミニ展示「長法寺十三重石塔に納められた押出三尊仏像と御正体」			7/14～9/18 飛鳥資料館第14回写真コンテスト 「飛鳥のくらし」											

公益財団法人日本博物館協会の主要活動について

(1) 博物館の普及啓発に関する事業

1) 月刊誌「博物館研究」の刊行

博物館の総合研究情報誌として、内外の動向を反映しつつ博物館の取り組むべき課題について、毎号特集テーマを設定して内容の充実を図るとともに、博物館関連の最新情報、地方の動向、海外ニュース等各種情報の提供に努める。

令和5年度の特集テーマは次の通りである。(その他の号は例年通り)

(7月号)「博物館とトイレ」

(8月号)「レトロ・ノスタルジー展示の長所と課題」

(9月号)「博物館を支える組織(協会・協議会)の役割」

(10月号)「どうする動画配信」

(11月号)「文化財修理の実状」

(12月号)「収蔵庫をめぐる問題」

(1月号)「博物館における動物倫理・動物福祉」

(2月号)「博物館は直面する課題・問題をどう改善・解決したか?」

2) 全国博物館大会の開催

第71回全国博物館大会を、千葉県博物館協会、千葉県、千葉県教育委員会、千葉市、千葉市教育委員会の共催・後援を得て、11月15日(水)～17日(金)の3日間、千葉県千葉市を主会場に開催する。

11月17日(金)には千葉県内の博物館施設を中心に訪問する予定である。

3) 全国博物館長会議の開催

博物館運営の中核である館長を対象に、全国博物館長会議を、文化庁との共催のもと、令和5年7月5日(水)に対面式会議で開催する。文化庁の博物館担当官等による令和5年度事業の行政説明及び当協会の令和5年度事業計画等の説明を行うとともに、館長のマネジメントとガバナンスの強化を基盤として、博物館が教育・学術・文化の発展はもとより、中長期的且つ継続的に地域の活力向上に寄与していくための会議とする。

(2) 博物館に対する支援に関する事業

1) 博物館利用支援機器の支給

子育て世代、高齢者、障がい者等の博物館の利用の促進を図り、これらの人々の文化的、知的要求に応えるとともに、生き甲斐と豊かな生活を支援するため、一般

財団法人日本宝くじ協会の助成を得て、今年度も車いす・ベビーカーの支給を行う。

支給予定台数	車いす	90台
	ベビーカー 帆なし	81台

2) 博物館絆プロジェクトの実施

東日本大震災以降も多発する自然災害による博物館や文化財被害に対する支援と、博物館の防災体制充実に向け、今年度も「博物館絆プロジェクト」を継続する。

発災から12年を経た東北の被災地については、令和5年度の文化庁補助事業である Innovate MUSEUM 事業において、岩手県立博物館を中核館とする博物館防災に係るネットワーク構築を中心に、昨年度からの事業継続を図る。

国立文化財機構を中心とする「文化財防災ネットワーク」の構成団体として、国内外の博物館の防災体制の整備を進めるとともに、同機構の「文化財防災センター」および、ICOM の「博物館防災国際委員会」等との連携により、全国の博物館の防災体制の整備に努める。

また、令和元年の台風19号の被災に係る川崎市市民ミュージアムや長野市立博物館への支援を必要に応じて継続するとともに、今後発生が危惧される大規模災害への対応を含め、引き続き募金・寄附の募集、救援事業への参加者募集を継続する。

(3) 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

1) 博物館登録制度の在り方に関する調査研究

改正博物館法施行により、登録制度をはじめ新たな博物館法制度が適用される中で、今後に向けた課題の抽出や改善策の検討、また、今回の改正で継続審議事項とされた学芸員制度や養成の在り方について、引き続き文化審議会博物館部会での審議を踏まえつつ、日博協として独自の調査研究を行い、その情報を広く会員、博物館関係者に周知するとともに、必要に応じて広く議論する場を用意し、今後の博物館制度の在り方について、全国の博物館関係者の意見を反映できるよう努める。

2) 新たな博物館登録制度の在り方等に関する調査研究

改正博物館法の施行から5年間の経過措置が設けられている新たな博物館登録制度について、法改正後の登録審査制度の運用の在り方、制度の周知・理解の促進等について、文化庁等との協議の下に、日博協として積極的に参画し、博物館全体の振興に資する博物館制度の充実に努める。

3) 日博協100周年事業・その他

令和10（2028）年に日博協が100周年を迎えるに際し、日博協及び日本の博物館の歴史をまとめた記念誌を出版することとし、調査研究、編集企画を行う委員会の設置等、必要な準備作業を開始する。また、博物館登録制度とも関連する博物館と著作権の問題、生物多様性を含む今後のSDGsと博物館の取組等に関し、外

部機関等との連携を維持・強化を図るとともに、必要に応じて委員会の設置も検討する。

4) 博物館総合調査

博物館制度の検討に重要な基礎データであり、各博物館の運営改善にも重要な役割を持つ博物館総合調査について、令和5年度は、総合調査に係る委員会を組織し、11月ごろを目途に調査を実施する予定で準備を行い、令和6年度中に報告書を作成することを目標に必要な作業を進める。また過去3年間で行ってきたコロナ禍が博物館運営に及ぼした影響についての取りまとめを行う。

5) 博物館に関する情報の提供

- ① 全国博物館園職員録等を刊行し、博物館活動に必要な情報を提供する。
- ② 全国の博物館の所在地、交通案内、収蔵品、常設展示等について記載した全国博物館総覧の編集を行い、博物館活動の連携を推進するための情報を提供する。

(4) 博物館関係者の資質の向上に関する事業

1) 研究協議会の開催

博物館の学芸員をはじめ職員の資質の向上を図るため、博物館制度の在り方をはじめ、博物館が直面する諸課題を研究協議し議論を深めるために、年度中に2～3テーマを設定し開催する。なお、開催については、近年の参加者ニーズを勘案し、ハイブリッドやオンライン等も含めて柔軟に対応する。

2) 顕彰の実施

博物館に永年勤続し功労のあった博物館職員等に博物館功労賞を授与するとともに、前年度「博物館研究」に掲載された優れた論文について棚橋賞を、また、優れた実践報告等に対する論文に博物館活動奨励賞を授与し、その功績を顕彰する。

また、令和2年に新たに創設した「日本博物館協会賞」の第4回目の受賞館を表彰するとともに、毎年秋に開催される the Best in Heritage (TBIH) に日本の代表館として推薦し派遣する。なお、2023年TBIHは実開催ではなく、デジタル開催となることが決定している。

第5回「日本博物館協会賞」選考委員会は令和6年2月に実施する。

3) 美術品梱包輸送技能取得士資格認定事業の実施

平成24年度から試行実施した美術品梱包輸送技能士資格認定事業（平成25年度から美術品梱包輸送技能取得士資格認定事業と改称）については、平成25年度に1級（上級）資格の試行試験を終了したことに伴い、平成26年度から、3級（初級）、2級（中級）、1級（上級）について、本格実施し、3級合格者は既に400名

を超えた。認定試験実施時期は、1 級 8 月初旬、2 級および 3 級は令和 6 年 2 月を予定している。

大手業者と中小業者で合格率、合格者数の格差が生じているため、中小業者の梱包技術向上を目的として、実技ビデオのホームページ上での公開を継続する。

また、資格認定制度の普及を図るため、各博物館及び関係機関に、美術品の梱包輸送に当たっては、本認定資格者を有する美術品取扱い業者を優先して採用するよう引き続き働きかけを行う。

（５）博物館の国際交流に関する事業

1) 国際発信・国際交流体制強化の継続

世界的に新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、国際的な人の移動が活発化するとともに、オンライン環境でのコミュニケーションが進展する状況を踏まえ、ICOM を中心とする国際的な博物館活動への積極的参加により、ICOM 京都大会のレガシーを確実に継承し、国際的に活動できる日本人人材の育成を支援することを主軸に、今後の日本の博物館振興につなげるべく国際発信・国際交流を促進する取組を引き続き強化する。

- ・国内会員の会員数維持とさらなる拡大に向けて、引き続き ICOM 日本委員会のホームページの充実を図り、ICOM 関連情報の迅速な提供とともに、英語による日本の博物館に関する情報、国内外博物館の ICOM 会員への優遇施設情報等を発信等、内容の充実を図る。
- ・本年 6 月にパリで開催予定の ICOM 年次総会大会（オンライン形式での開催）に日本からも参加し、本部等との連携を強化するとともに、増加しつつある日本人の ICOM 国際委員会ボードメンバー等について、文化庁補助金等の活用による国際会議等への出席・発表等を支援し、日本の博物館の国際発信とともに、国際組織で活躍できる人材の育成を促進する。
- ・博物館防災国際委員会（DRMC）との連携をはじめとして、国際的な博物館の防災体制の整備に努め、必要に応じた支援を行う。
- ・国内の事業としては、博物館セキュリティ国際委員会（ICMS）が計画中の日本での総会・研究大会の開催について、日本委員会も実行委員会の一員として参画し、博物館の危機管理等についての議論を深める。

2) 「国際博物館の日」事業の実施

ICOM が世界規模で行う「国際博物館の日」事業として、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールすることを目的として、令和 5 年（2023 年）の国際博物館の日のテーマ“Museums, Sustainability and Well-being”（博物館と持続可能性、ウェルビーイング）に沿って、5 月 18 日の「国際博物館の日」を中心に、全国の各博物館において、入館料の減免、記念品の作成・配付、特別展や講演会の開催等の記念行事を展開した。また、本事業の広報のために PR 用ポスターを作成し、国内の各博物館及び関係機関に広く配布することにより、博物館の存在と活動の広がりをアピールした。

また、ICOM 日本委員会等との共催で、記念シンポジウムを5月21日（日）に東京・国立科学博物館にて開催した。

（6）新型コロナウイルス感染拡大の博物館への影響に関する対応

1）政府の指針に則り「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の適切な改定等を行うとともに、5月8日以降、5類感染症への移行後の博物館における基本的方針を取りまとめ、日常的な感染予防対策をはじめ、今後の博物館運営の在り方等の参考になるべく手引きを博物館関係者に発信・共有を図った。なお引き続き、博物館現場の相談対応、助言を行える体制を確保する。

2）新型コロナウイルス感染拡大が博物館運営にもたらしている影響について、全国の会員館を中心にアンケート調査を実施し、これまでの調査を含めデータを整理分析し、まとめた結果を博物館関係者に発信・共有し、コロナ禍で学んだ様々な教訓を活かしつつ博物館活動の持続的継続に向けた検討を行う。

（7）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1）各地区単位の博物館の会議に共催者として職員の派遣及び情報提供等の支援を行う。

2）当協会のホームページを刷新し、会員各館園を有機的に結び付けかつ機能的で使いやすいものとする。

3）希望会員館園を構成員として、施設賠償責任保険（賠償責任保険制度）及びレジャー・サービス施設費用保険（見舞金制度）の団体加入の周知と加入促進に努め、入館者に対する安心・安全の確保を図る。

第70回全国博物館大会決議

私たちは、公益財団法人日本博物館協会主催のもと、こうちミュージアムネットワークの共催、ならびに文化庁、高知県、高知県教育委員会、高知市、高知市教育委員会の後援を得て、第70回全国博物館大会を、令和4(2022)年11月16日・17日・18日の3日間にわたり、高知県高知市で開催した。

今回もコロナ禍の影響下での開催となったが、大会には全国から約400名が参加し、博物館法改正後の博物館のあるべき姿について、地域での意欲的な取組を共有しつつ活発な議論が行われた。

私たちは、博物館制度が大きな転機を迎えるなかで、博物館が、歴史文化・自然科学等多岐にわたる文化遺産の保存継承・活用を核とする社会教育・生涯学習はもとより、文化振興を担う中核施設として、全ての人々が健康で文化的な生活を送るために不可欠な社会基盤であることを改めて確認した。

しかし、博物館が社会から求められる役割を持続的に果たすためには、個々の施設への支援や人材育成の促進等、早急に解決すべき多くの課題が残されていることを併せて認識した。その上で、課題の解決に向けては、博物館を構成する基本的な機能の一層の充実に向けた各博物館の努力とともに、博物館全体の振興を図るための多様な支援制度の整備が不可欠であることを各方面に強く訴える必要性を確認した。

ここに「地域から発信する博物館の未来」というテーマの下に開催された本大会の議論を実効あるものとするため、第70回全国博物館大会の名において下記のとおり決議する。

記

- 1 各博物館は、改正博物館法の趣旨を踏まえ、それぞれの特色・特性を活かした基本的機能の充実に努め、博物館同士はもとより、地域のさまざまな主体との連携の下に、利用者・社会からの期待に応え得る博物館活動を、持続的・発展的に展開するために努力する。

日本博物館協会は、改正博物館法施行後の博物館制度や支援策の在り方等について、ICOM プラハ大会で採決された新たな博物館定義に示された博物館の役割も踏まえ、各博物館とともに、国をはじめとする関係機関・団体等との連携の下に引き続き検討を進め、課題解決に向けて最大限努力する。検討に際しては、新たな登録制度の拡充とともに、登録施設へのインセンティブの付与、多様化する博物館の持続的発展に必要な、公私立博物館に対する支援の拡充、学芸員等必要な人材確保・育成、国際化の促進とともに、経営資源の確保等、その目的・役割が確実に達成できる経営基盤の強化を図るべく、関係機関等に強く協力・理解を求める。

- 2 各博物館は、引き続き新型コロナウイルス感染予防の重要性を認識し、ガイドラインを基本に各施設の規模・特性を踏まえた感染予防対策を実施し、利用者・職員の安全確保を図りつつ、安心してご利用いただける博物館運営に取り組む。

日本博物館協会は、今後とも各博物館の運営実態や課題を把握し、博物館に対する必要な支援政策の継続等に努めるとともに、感染状況を把握し迅速に対応するため、国との連携の下に博物館の存続と持続的成長に向けた支援に取り組む。また、日本博物館協会は、コロナ禍の教訓を踏まえ、文化財・博物館資料等の保存、調査研究環境の整備等、基本的な機能の充実にともに、多様な情報発信に不可欠な、デジタル化・ネットワーク化について、全国の博物館へ広く普及させる取組等、更なる博物館への支援を、国等に強く働きかける。

- 3 各博物館は、今後の博物館活動の充実に国際的連携が不可欠であることを認識し、国際的視野に基づく人材育成や相互連携の促進に努める。また、SDGs(持続可能な開発目標)への対応をはじめ、博物館が果たすべき社会的役割を認識し、各博物館の特色を活かした活動の充実に向けて努力する。

日本博物館協会は、新たな ICOM の博物館定義の趣旨・内容を広く関係者に周知共有するとともに、各博物館の国際化への取組の推進を支援し、継続的に進展させるために、国を始めとする関係機関・団体等に対し支援・協力を要請する。

- 4 各博物館は、地震や豪雨・火災等をはじめ、多発する大規模災害における博物館・文化財の被害を防ぎ、被災した博物館や文化財の復旧・復興を支援するために相互の連携を強化する。

日本博物館協会は、国立文化財機構文化財防災センターとの連携を核とし、地域および全国的な文化財・博物館施設全体の防災体制の構築・強化に努めるとともに、国連、UNESCO、ICOM や ICOMOS をはじめとする関係国際機関との連携の下に、国際的な防災体制の強化に努める。

以上

令和4年11月17日
第70回全国博物館大会

2023 年「国際博物館の日」記念事業の概要

5月18日の「国際博物館の日」を中心として、全国各地の博物館や美術館等で様々な記念事業が企画されました。概要は以下の通りです。

1. ポスターの作成

協賛企業6社の協力を得て、ポスターを作成し、日博協会館園ならびに ICOM 団体会員、ICOM 会員優待施設に配付しました。

2. 各館園における記念事業

ICOM（国際博物館会議）が提唱する「国際博物館の日」の事業として、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールし、博物館の普及を図るため、5月18日「国際博物館の日」を中心に、今年の共通テーマである「博物館と持続可能性、ウェルビーイング」に基づき、全国の104館/園で無料入館や記念行事、記念品贈呈など約160件の記念行事が企画されました。詳細は別表をご参照ください。

3. 記念シンポジウム

5月21日は、共通テーマに関連する専門家による講演と、今後国際的に活躍する博物館人材を育成する観点から、青柳委員長と大学院生の対談で構成される記念シンポジウムを国立科学博物館で約100名が参加して実施しました。また、YouTube による事後配信も予定しています。

以上

2023年度「国際博物館の日」記念事業一覧

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等でご確認ください。

都道府県	館名	2023年「国際博物館の日」記念事業等			備考
		事業名	実施期間	内容	
北海道	平取町立二風谷アイヌ文化博物館	無料公開	5月21日	来館者19名以下無料入館	
		記念品贈呈		来館者全員にポストカードを贈呈する	
北海道	浦幌町立博物館	無料公開	5月18日	日頃から無料公開している	
		夜間開館		通常18:00閉館のところを20:00まで開館とする	
		記念講座「改正博物館法と浦幌：浦幌町立博物館を知ろう」	5月18日18:00～20:00	昨年登録博物館となった当館は、今年施行される新しい博物館法のもとで、何がどう変わり、何を目指していくのか。地域における博物館のあり方を考えていきます。	
岩手県	一関市博物館	無料公開	5月20日～21日	全ての展示を無料で公開する	
秋田県	秋田県立近代美術館	無料公開	－	常設展のみ無料で公開する（4月12日～7月9日は「コレクション展1期 樹を描く 木で創る」を公開）	
		記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	
		特別展 縄文 小川忠博写真展	4月22日～6月30	写真家・小川忠博による縄文の美を体感できる写真展	
山形県	本間美術館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	
山形県	山形県立博物館	無料公開	5月5日	全ての展示を無料で公開する	
山形県	米沢市上杉博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
宮城県	仙台市縄文の森広場	山田上ノ台式縄文乃春（縄文春まつり）	4月29日 10:00～15:00	弓矢体験やコンサート、工作体験など	
福島県	須賀川市立博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
新潟県	小林古径記念美術館	無料公開	5月21日	全ての展示を無料で公開する	
新潟県	柏崎市立博物館	無料公開	5月14日	常設展のみ無料で公開する	
新潟県	新潟市歴史博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
新潟県	上越市立歴史博物館	無料公開	5月21日	全ての展示を無料で公開する	
	高田城三重櫓（同博物館所管）			無料で公開する。所在地：上越市本城町6-1	
新潟県	新潟県立歴史博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
		国際博物館の日記念講座「ICOM、そして博物館法」	5月20日 13:30～15:00	2022年8月、ICOM（国際博物館会議）の総会において、博物館の定義の改定が採択されました。また2023年4月に改正博物館法が施行されました。ICOMの定義の変遷や博物館法改正の要点などを確認し、博物館とは何かを改めて考えます。	
		国際博物館の日記念・招待券プレゼント	5月頃	抽選で新潟県立歴史博物館の招待券（常設展・企画展とも、年度内有効）をプレゼント	
新潟県	北方文化博物館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	
富山県	氷見市立博物館	無料開館	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
石川県	金沢市立安江金箔工芸館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員に金箔しおりを贈呈する	
石川県	小松市立宮本三郎美術館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にオリジナル缶バッジまたはマグネットを贈呈する	
石川県	小松市立本陣記念美術館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードか缶バッジを贈呈する（選択可）	
		企画展「春うらら一本陣コレクションからー」/特別企画展～所蔵東山魁夷作品一斉公開	3月28日～6月18日	春にちなんだ美術品を紹介する	
石川県	鈴木大拙館	国際博物館の日記念 黄昏スペースツアー「とふ」	5月18日 18:30～19:30	当館学芸員・猪谷 聡によるミニトーク（テーマ「とふ」：問う／訪う／弔う）と、ライトアップおよびライトダウンされた館内見所の案内とあわせ、静かな「思索」のひとときを提案する。事前申込制（先着順）	
石川県	小松市立博物館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員に記念品を贈呈する	
群馬県	岩宿博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
栃木県	那須野が原博物館	無料公開	5月21日	全ての展示を無料で公開する	
栃木県	茨城県天心記念五浦美術館	記念品贈呈	5月13日、14日、18日	先着30名にポストカードを贈呈する	
栃木県	足利市立美術館		5月18日	全ての展示を無料で公開する	
茨城県	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	無料公開	5月4日	全ての展示を無料で公開する	
茨城県	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	無料公開	5月18日、5月21日	全ての展示を無料で公開する	
茨城県	徳川ミュージアム	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にオリジナルA6クリアファイルを贈呈する	
		SNSでの公開	5/8、5/11、5/17、5/18	徳川ミュージアムTwitterでのツイート、ホームページでの広告	

2023年度「国際博物館の日」記念事業一覧

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等でご確認ください。

都道府県	館名	2023年「国際博物館の日」記念事業等			備考
		事業名	実施期間	内容	
東京都	五島美術館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	
東京都	東武博物館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にオリジナルグッズを贈呈する	
東京都	国立西洋美術館	無料公開	5月18日	常設展示のみ無料で公開する	
東京都	朝倉彫塑館	無料公開	5月16日	無料で公開する	
東京都	古賀政男音楽博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
東京都	杉野学園衣裳博物館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	
東京都	武蔵野市立吉祥寺美術館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードまたは美術館オリジナルグッズを贈呈する	
東京都	松岡美術館	記念品贈呈	5月18日	ポストカードを贈呈する	
		グッズの割引販売		関連グッズの割引セット販売を予定	
東京都	三井記念美術館	無料公開	5月18日	学生・外国人は入館料無料	
東京都	家具の博物館	無料公開	5月4日～5月25日	全ての展示を無料で公開する	
		昭島人物紹介展「足立美千代粘土アートの花展」		足立美千代氏の粘土アート作品を展示する	
東京都	世田谷文学館	無料公開	5月10日	全ての展示を無料で公開する	
東京都	切手の博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
		ギャラリートーク		主任学芸員が、開催中の「エリザベス女王の生涯」展の解説を行います	
		閉架図書利用料無料公開		図書室の閉架図書利用料(1日/1,000円)を無料にする	
		豊島郵便局臨時出張所を開設		今年の「国際博物館の日」のテーマにちなんだ図案の小型印(イラスト入り消印)の押印サービスを実施します	
東京都	日本カメラ博物館	記念品贈呈	5月18日	先着5名にオリジナルマスキングテープを贈呈する	
		割引入館(一般入館料のみ)		入館料一般300円を100円引きにする	
東京都	ちひろ美術館	たてもの探検ツアー	5月18日 11:00～11:30 14:00～14:30	ちひろ美術館・東京の建物の魅力、設計者の思い、美術館のあゆみなどについて、スライドを使ってお話します。【定員】15名【参加費】無料(入館料別)【申し込み】当日10時より受付にて、各回の整理券を配付	
東京都	國學院大學博物館	無料公開	-	日頃から無料公開している	
		「土御門家がみた宇宙—江戸時代の天文観測—」ナイトミュージアム & 今日の星空	5月12日 18:00～20:00	仕事帰りにお立ち寄りいただけるよう延長開館。ご希望の方に、「今日の星空」プリントを配布。	
東京都	国立新美術館	ルーヴル美術館展 愛を描く	5月18日	先着でクリアファイルプレゼント(詳細は後日、当館ホームページに掲載予定)	
		無料公開		第118回 太平洋展、第75回 三軌展、第44回 日本新工芸展の入場料を無料とする	
		記念品贈呈		ミュージアムショップ『スーベニアフロムトーキョー』で商品をお買い上げのお客様(先着30名)に国立新美術館のポストカードを贈呈する	
		カフェテリア カレ(B1F) でのコーヒーサービス		14時30分以降にお食事をご利用の方にコーヒー1杯をサービス(販売メニューを店内でご利用の方に提供)	
東京都	パナソニック汐留美術館	入館料割引	5月18日	高校生以上の入館料を500円とする	
東京都	森美術館	割引入館	5月18日	森美術館及び六本木ヒルズ展望台 東京シティビューの入場料を100円引きにする	
東京都	東京国立博物館	無料公開	5月18日	常設展のみ無料で公開する	
		都立公園開園150周年記念企画/国際博物館の日記念「上野の山で動物めぐり—動物の『尾・しっぽ』—」	5月14日 14:00～15:30	動物の「尾・しっぽ」をテーマに、上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館の研究員によるウェビナーを開催する。※事前予約制、先着順	
		国際博物館の日記念ガイダンス「トーハクへようこそ」	5月18日 11:00～、14:00～	初めて来館される方に向けて、トーハクのみどころを30分でご紹介します。	
東京都	実践女子大学香雪記念資料館	無料公開	-	日頃から無料公開している	
東京都	郵政博物館	記念品贈呈	5月21日	来館者全員にポストカードを贈呈する	

2023年度「国際博物館の日」記念事業一覧

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等でご確認ください。

都道府県	館名	2023年「国際博物館の日」記念事業等			備考
		事業名	実施期間	内容	
千葉県	鴨川シーワールド	特別レクチャー「シャチ ものしり講座」	5月13日・14日12:30～ 5月18日12:00～	1970年のオープン以来、日本で初めてシャチを飼育しパフォーマンスを公開してきた。1998年には日本で初めて繁殖に成功、2008年には3世の出産に成功した。本特別レクチャーでは、当館のシャチ飼育の歴史やシャチにまつわる貴重なエピソードを、写真や映像を用いて紹介する。	
千葉県	千葉県立関宿城博物館	パネル展「身近なクモ」	4月18日～6月25日	私たちの身のまわりにいるたくさんのクモの様子をパネルで紹介する。	
千葉県	千葉県立関宿城博物館	身近なクモの観察会	6月3日、6月18日 両日とも11:00～12:00	当館周辺で見られる身近なクモを観察する。	
千葉県	芝山町立芝山古墳・はにわ博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
千葉県	船橋市郷土資料館	無料公開	-	日頃から無料公開している	
		ミニ展示「津田沼PARCOの思い出」	5月2日～6月11日	2月に惜しまれつつ閉店したパルコ津田沼店に関する資料・展示物を紹介する。 (協力:千葉工業大学創造科学部デザイン工学科)	
		令和5年度 船橋市出張美術展 ―どこかで見た不思議な風景―	5月27日～6月11日	椿貞雄による絵画など市所蔵作品約20点と、それらの作品に関連する郷土資料館収蔵資料を展示する。(共催:船橋市教育委員会文化課)	
神奈川県	生命の星・地球博物館	おやこで貝がらをしよう	5月5日	貝がらみがき、フロッタージュ(こすり出し絵)、かたち調べなど、貝がら遊びをしながら、貝についてもっともっと詳しくなりましょう。	
		地形地質と鳥瞰図の観察会	5月14日	県立歴史博物館が所蔵する吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」などを参考にしながら、歩いて観察します(4～5km)。健脚向け講座。	
		博物館学入門 ～概論とおすすめの博物館紹介～	5月20日	博物館学をご存じですか？大学の学芸員課程で開講されていますが一般にはなじみがありません。博物館学がどういうものを解説し、担当者の独断で訪れて欲しい博物館を紹介します。	
神奈川県	明治大学平和教育登戸研究所資料館	記念品贈呈	5月6日、18日	先着20名にポストカードを贈呈する。5/6イベント参加者にはくじ引きでその他記念品贈呈あり。	
		イベント「一億総防諜戦士！？」～紙芝居「スパイ御用心」の上演とお話～	5月6日11:00、13:00 (所要時間60分程度)	国防保安法施行にあわせ1941年5月に全国一斉に行われた防諜キャンペーン。その中で国民への防諜教育の一環で作成された紙芝居「スパイ御用心」の上演と、日本陸軍が繰り広げた防諜政策・防諜教育についてお話をします。※5/27まで開催中の企画展関連イベント	
神奈川県	相模原市立博物館	無料公開	-	日頃から無料公開している	
		国際博物館の日記念事業「博物館探検隊！」	5月13日～20日	・5月13日14:30～16:30 「夢の話のような宇宙を、みなさんの日常にグンと近づける講演」＜講師＞久保勇貴さん(JAXA宇宙航空プロジェクト研究員)先着200名 ・5月13日①10:30～11:30 ②13:30～14:30 「昼間の金星観察会」昼間でも見える金星の観察会を行います。 ・5月13日14:00～14:30 地質企画展「石のステンドグラス2」展示解説 ・5月14日13:00～14:00 「くずし字を読んでみよう」掛け軸などに書かれたくずし字の解説にチャレンジ ・5月20日13:00～16:00 「縄文人になっちゃおう！」縄文コスプレで、本物の土器と一緒に記念撮影できます。 ・5月20日12:00～12:30 「生きものミニサロン」生きもの好きのみなさん対象のミニサロン ・5月20日 ①11:30～②13:30～③14:30 各回30分 「バックヤードツアー」普段は入れない博物館の裏側“バックヤード”を探検します。※各回先着20名、30分前から会場で整理券を配布	
静岡県	三島市郷土資料館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	
		無料公開	-	日頃から無料公開している	
		記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	

2023年度「国際博物館の日」記念事業一覧

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等でご確認ください。

都道府県	館名	2023年「国際博物館の日」記念事業等			備考
		事業名	実施期間	内容	
静岡県	富士山かぐや姫ミュージアム	富士山世界遺産登録10周年記念展「富嶽真景—昭和の写真家・清水緑—」	3月11日～7月2日	特別展示室において、昭和の富士山写真家・清水緑の富士山写真集『富嶽真景』の原本写真を紹介。	
		武田弘氏寄贈富士山コレクション展「彩り富士山 絵付けの陶磁器」	2月18日～6月4日	常設展示室「富士山の玉手箱」において、広島市在住の武田弘氏から寄贈された富士山関係のコレクションの一部を紹介。	
静岡県	島田市博物館	無料公開	5月5日	全ての展示を無料で公開する	
静岡県	MOA美術館	入館料割引	5月19日	入館料を100円割引とする(他の割引券と併用は無し)	
岐阜県	土岐市美濃陶磁歴史館	記念品贈呈	5月18日	先着50名に缶バッジを贈呈する	
愛知県	刈谷市歴史博物館	無料公開	—	日頃から無料公開している	
		記念品贈呈	5月16日～5月21日	来館者アンケートの回答者に博物館ロゴ入りシャープペンを贈呈する	
愛知県	トヨタ博物館	無料公開(学生限定)	5月18日	学生の入館料を無料とする(学生証の提示要)	
		特別ガイド		特別学芸員ガイドツアー(無料)	
愛知県	安城市歴史博物館	無料公開	5月21日	全ての展示を無料で公開する	
三重県	四日市市立博物館	無料公開	5月13日～5月14日	常設展示のみ無料公開する	
		記念品贈呈	5月13日～5月14日	先着50名にポストカードを贈呈する	
		時空街道ツアーex	2023/5/14 13:15～	4のつく日曜・祝日に行く常設展とプラネタリウム環境番組をご覧いただくコンセプトツアー。博物館ボランティアが案内する。	
三重県	鈴鹿市考古博物館	無料公開	5月21日	全ての展示を無料で公開する	
和歌山県	高野山霊宝館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	
		宗祖弘法大師御誕生1250年大法会記念展「お大師さまから・お大師さまへ」	4月15日～10月9日	令和5年はお大師さまが御誕生されて1250年の記念の年にあたります。そこで、本展では、お大師さまゆかりの文化財を展示し、現代に残る名宝よりお大師さまの御誕生からの足跡を紹介します。	
和歌山県	和歌山市立博物館	無料公開	5月20日～5月21日	全ての展示を無料で公開する	
滋賀県	彦根城博物館	記念品贈呈	5月18日	先着100名にポストカードを贈呈する	
滋賀県	木下美術館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
滋賀県	観峰館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
奈良県	奈良文化財研究所飛鳥資料館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員に三尊塙仏マグネットを贈呈する	
奈良県	歴史に憩う橿原市博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
大阪府	国立国際美術館	無料公開	5月18日	コレクション展示のみ無料公開する	
大阪府	吹田市立博物館	無料公開	5月20日～5月21日	無料で公開する	
		令和5年度春季特別展「大坂の陣と吹田村 ー橋本家文書展ー」	4月29日～6月4日	—	
大阪府	柏原市立歴史資料館	無料公開	—	日頃から無料公開している	
		記念品贈呈	5月18日	来館者全員にミュージアムグッズを贈呈する	
大阪府	国立民族学博物館	記念品贈呈	5月20日	先着100名にポストカードを贈呈する	
京都府	鞍馬山霊宝殿	記念品贈呈	5月18日	来館者全員に散華5枚組を贈呈する	
兵庫県	姫路文学館	無料公開	5月14日	常設展を無料公開する(ボランティアガイドによる説明あり)	
		記念品贈呈		クイズラリー参加者に記念品を贈呈する	
兵庫県	小野市立好古館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
兵庫県	たつの市立龍野歴史文化資料館	無料公開	5月18日～5月21日	全ての展示を無料で公開する	
		ロビー展「明治の音色を奏でる風琴～龍野で作られた池内オルガン～」	4月29日～6月25日	地元龍野で作られた明治時代のオルガンやゆかりの品々を展示する	
兵庫県	小磯記念美術館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
兵庫県	神戸ゆかりの美術館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
兵庫県	神戸市立博物館	無料公開	5月18日	常設展のみ無料公開する	
岡山県	備前長船刀剣博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
岡山県	つやま自然のふしぎ館	記念品贈呈	5月18日	来館者全員にポストカードを贈呈する	

2023年度「国際博物館の日」記念事業一覧

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等でご確認ください。

都道府県	館名	2023年「国際博物館の日」記念事業等			備考
		事業名	実施期間	内容	
岡山県	夢二郷土美術館(本館)、夢二生家記念館・少年山荘(別館)	記念品贈呈	5月18日	本館、別館それぞれ先着30名にポストカードを贈呈する	
岡山県	岡山県立博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
鳥取県	わらべ館	国際博物館の日記念イベント「おもちゃドクターのメカニズムおもちゃショー」	5月13日 11:00～11:40	おもちゃドクターが「レールトイ新幹線」の中身をみせながら、「動くしくみ」を解説するトークショー。親子で車両のゴムタイヤを交換するメンテナンス体験もあります。	
島根県	島根県立古代出雲歴史博物館	記念品贈呈	5月21日	イベント参加者に ボールペン、シール、缶バッジを贈呈する	
島根県	島根県立古代出雲歴史博物館	歴博バックヤードツアー	5月21日 10:00～11:00、14:00～15:00	学芸員によるバックヤードの案内 事前予約制(電話のみ)参加費無料、各回定員10名程度	
香川県	香川県立ミュージアム	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
		ゴールデンウィーク・スペシャルプログラム 子どもも大人もとことん空海	5月1日～5月5日 (空海クイズラリー) 5月4日、5日 (空海ペイント) 10:00～16:00	弘法大師空海生誕1250年記念特別展「空海 ―史上最強、讃岐に舞い降りた不滅の巨人」の関連イベント。 詳細は当館ホームページ参照	
香川県	東山魁夷せとうち美術館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	
高知県	高知県立歴史民俗資料館	無料公開	-	日頃から無料で公開している	
徳島県	徳島県立博物館	企画展「朱を求めてー若杉山辰砂採掘遺跡からみる徳島の弥生時代ー」	4月22日～5月28日	徳島の先史・古代の世界について、弥生時代の水銀朱生産遺跡である若杉山辰砂採掘遺跡から得られた情報をもとに紹介する。	
愛媛県	今治市大三島美術館	無料公開	5月21日	全ての展示を無料で公開する	
		記念品贈呈	5月21日	来館者全員にポストカードを贈呈する	
山口県	下関市立美術館	記念品贈呈	5月16日～5月21日	来館者全員に記念シールを贈呈する	
山口県	松陰神社宝物殿至誠館	記念品贈呈	5月18日	先着50名にミニクリアファイルを贈呈する	
山口県	山口大学埋蔵文化財資料館	無料公開	-	日頃から無料で公開している(常設展のみ)	
		記念品贈呈	5月18日～	先着100名に不織布製オリジナルエコバッグ(A4サイズ)を贈呈する	
山口県	萩博物館	記念品贈呈	-	先着50名にポストカードを贈呈する	
福岡県	大野城心のふるさと館	無料公開	-	日頃から無料で公開している(常設展のみ)	
		開館5周年記念特別展 白木原ベースサイドストーリー ～街のなかのアメリカ文化、そしてPOP吉村伝説の誕生～	4月25日～6月18日	国際博物館の日(令和5年5月18日)は特別展観覧料を無料とする	
福岡県	福岡市美術館	無料公開	5月13日～5月21日	常設展のみ無料で公開する	
		記念品贈呈	5月13日～5月21日	スタンプラリー参加応募者に記念品を贈呈する	
		福岡ミュージアムウィーク2023記念講演会「誰もが美術館を体験できるようになるには～美術館における『ユニバーサル』とは何かを考える～」	5月14日14:00～15:30	『さわって楽しむ博物館―ユニバーサル・ミュージアムの可能性』や『目に見えない世界を歩く』の著者であり、2021年に開催された展覧会「ユニバーサル・ミュージアム―さわる! “触”の大博覧会」の企画者である広瀬浩二郎氏(国立民族学博物館・教授)を講師として迎え、「美術館におけるユニバーサルとは何かを考える」というテーマでお話いただきます。	
		初めてのベビーカーツアー	5月17日、18日 10:00～10:40	小さな子どもとその保護者を対象に、美術館の作品をみて楽しむ方法や館内の設備を紹介するツアー。	
		建築ツアー	5月20日 10:30～12:00	前川國男設計の福岡市美術館の建築を鑑賞する	
		つきなみ講座スペシャル「仙厓さんのすべて(6)」	5月20日 14:30～16:00	月に一度当館館員が自身の仕事、展示、研究、関心ごとについて話す「つきなみ講座」のスペシャルバージョン。中山喜一郎(総館長)による、仙厓講座の第6回目講座。数多い仙厓の禅画の中でも最高難度の作品と言われる「○△□」を、あらゆる角度から考察する。	
沖縄県	沖縄県立博物館・美術館	無料公開	5月18日	常設展のみ無料公開する	
		博物館学芸員講座(人類)「ネアンデルタールとクロマニヨン」	5月13日 14:00～16:00	ネアンデルタールとクロマニヨンの発見と研究の歴史について講座形式で紹介いたします。	
		バックヤードツアー	5月27日 14:00～15:00	普段は見ることの出来ない博物館の裏側を紹介いたします。(要:事前申込)	

2023年度「国際博物館の日」記念事業一覧

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等でご確認ください。

都道府県	館名	2023年「国際博物館の日」記念事業等			備考
		事業名	実施期間	内容	
		ミュージアムツアー	5月20日 10:30～12:00	普段は立ち入れない美術館のバックヤードをツアー形式で紹介します。(要:事前申込)	
		ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	5月13日/5月20日 ①10:00～11:00 ②11:00～12:00	沖縄の伝統的な草編みおもちゃをクラフトテープで制作します。(要:事前申込)	
沖縄県	那覇市立壺屋焼物博物館	無料公開	5月18日	全ての展示を無料で公開する	

第71回全国博物館大会（千葉大会）概要

今年の全国博物館大会は、11月15日（水）～17日（金）の3日間、千葉市で開催します。本年の大会の概要は以下の通りです。

会 期：令和5年11月15日（水）～17日（金） （3日間）

主会場：千葉市文化センター （千葉市）

主 催：公益財団法人 日本博物館協会

共催・後援：千葉県博物館協会、千葉県、千葉県教育委員会、千葉市、
千葉市教育委員会
（いずれも予定）

全体テーマ：「博物館法改正元年 一つながり、交差する一」

基調講演： 稲庭 彩和子
（独立行政法人国立美術館 国立アトリサーチセンター）

分 科 会：「デジタルアーカイブと博物館DX」、「博物館と多様な
主体」、「地域の特性と博物館」の3テーマ

エクスカージョン： 千葉県内博物館施設中心に検討中

会費： （会員） 6,000円 （非会員） 10,000円

博物館関係団体の概要

団体名		ICOM 日本委員会
代表者職名・氏名		委員長 青柳 正規
所在地		〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-52 黒田記念館別館3階 公益財団法人日本博物館協会 内
電話番号		03-5832-9108
ホームページアドレス		http://www.j-muse.or.jp/icom/ja/
連絡窓口	氏名	丸山 康之
	役職名	事務局次長
	電話番号	03-5832-9108
	E-mail	icom@j-muse.or.jp

○団体概要

ICOM(International Council of Museums;国際博物館会議)は、1947 年に創設された国際的な非政府機関である。世界 138 カ国(地域を含む)から参加があり、このうちの 125 の国と地域では National Committees(国内委員会)が組織されている。また、様々な専門分野ごとに 32 の International Committee(国際委員会)が設置されている。

ICOM 日本委員会は、ICOM 規約に従い、その目的達成とともに、国内における会員の諸活動の向上に資することを目的として、1951 年に設立された。ICOM 本部との連絡や本部事業への参画、国際的な博物館情報の発信、関連する他の国際機構への協力などの活動を行っている。令和 5 年 4 月現在の会員数は、個人会員 636 名、団体会員 53 団体である。

○令和 5 年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等）

国際博物館の日

ICOM が定める「国際博物館の日」である 5 月 18 日を中心に、日本博物館協会とともに国内の博物館に対し広く周知を行い、各館で無料公開や関連イベントの開催などの記念事業の実施を要請する。また、5 月 21 日には国立科学博物館で記念シンポジウムを開催し、後日 YouTube による録画配信を行う。

新たな博物館定義の周知、国際委員会の年次大会等の日本国内での開催の支援

2022 年 8 月の ICOM プラハ大会で採択された新たな博物館定義について、日本委員会が作成した日本語訳を含め、その意義を広く周知し、国際的な博物館動向を視野に入れた国内の博物館制度の充実に資する。

ICMS(博物館セキュリティ国際委員会)が、2023 年 9 月に東京で開催予定の年次大会及び研究会の開催を支援し、国内会員はじめ国内の博物館関係者等への周知を図る。

公式ウェブサイトと Facebook 等による情報発信

ICOM 全体の情報共有をはじめ、国内の活動紹介や会員からの寄稿の掲載等を日英 2 か国語で発信するほか、会員優遇施設も公開するなど、積極的な情報発信を継続する。

団体名		公益財団法人日本博物館協会
代表者職名・氏名		会長 山梨 絵美子
所在地		〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-52 黒田記念館別館3階
電話番号		03-5832-9108
ホームページアドレス		http://www.j-muse.or.jp/
連絡窓口	氏名	丸山 康之
	役職名	事務局長
	電話番号	03-5832-9108
	E-mail	webmaster@j-muse.or.jp
○団体概要 昭和3年、昭和天皇のご即位を記念して、学会・政界・財界からの代表22名によって、博物館事業促進会として設立。その後昭和6年、日本博物館協会と名称変更、昭和15年文部省の許可を得て社団法人となり、さらに昭和61年、財団法人に改組、平成25年4月、公益財団法人に移行して現在に至る。当協会は、博物館の振興に関する諸事業の実施を通じて、博物館の健全な発達を図り、もって社会教育の進展に資するとともに、我が国の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的として活動している。		
○令和5年度事業について（普及啓発、支援、調査研究、資質向上、国際交流、その他） 博物館の普及啓発に関する事業 全国博物館大会の開催、「博物館研究」の刊行、全国博物館長会議の開催 等 博物館に対する支援に関する事業 博物館利用支援機器の支給、博物館絆プロジェクトの実施、寄附金の募集、博物館総合保険事業 等 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業 博物館総合調査の実施、課題設定による調査研究、博物館に関する情報提供 新制度推進のための実施体制支援及びプロモーション活動事業の受託 等 博物館関係者の資質向上に関する事業 研究協議会・シンポジウムの開催、顕彰事業、美術品梱包輸送技能取得士認定試験の実施 等 博物館の国際交流に関する事業 国際博物館会議（ICOM）事務局としての国際交流、「国際博物館の日」の事業実施、国際動向の発信 等 その他の当協会の目的を達成するために必要な事業 各地区単位の博物館会議に職員派遣・情報提供、他の館種組織・関係機関との連携 等		

団体名		公益社団法人日本動物園水族館協会
代表者職名・氏名		会 長 村田 浩一
所在地		〒110-8567 東京都台東区台東4丁目 23-10 ヴェラハイツ御徒町 402
電話番号		03-3837-0211
ホームページアドレス		http://www.jaza.jp/
連絡窓口	氏名	永井 清
	役職名	事務局長
	電話番号	03-3837-0211
	E-mail	nagai@jaza.jp

○団体概要

国内の主要 90 動物園と 51 水族館(令和 5 年 3 月末現在)の園館長を会員とする組織で、動物園水族館の振興及び文化の発展・科学技術の振興・自然環境の保全に貢献し、人と自然が共生する社会の実現に寄与することを目的としている。日本全体を視野に個々の動物園水族館では対応出来ない事業を行っている。希少種の血統登録と繁殖を推進する生息域外保全活動を国内外の園館と連携しながら行うほか、飼育・教育スタッフのレベルアップと野生動物のメッセージを伝える教育普及活動を重視して事業を行っている。

○令和 5 年度事業について（調査研究、教育普及、種保存・支援）

第1. 調査研究・連絡

- (1) 宿題調査(テーマ調査)、受託調査、雑誌、年報などの発行
- (2) 各種研究会の開催(全国会議の基本は対面とし、状況によりオンライン併用、他の会議も同様)
- (3) 安全対策、災害対策、感染症対策調査・連絡など

第2. 教育活動・普及啓発等

- (1) 参加型教育研修会(ワークショップ)の開催
- (2) 飼育技師資格認定試験の実施、上級飼育技師資格認定試験の実施

第3. 種の保存に関する事業

- (1) 環境省と締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づく事業
- (2) 種保存会議、個体群管理研修などの開催
- (3) 希少動物繁殖計画、配偶子バンクなど
- (4) 国からの受託事業、任意放棄動物保護事業など

団体名		公益社団法人日本植物園協会
代表者職名・氏名		会長 西川 綾子（水戸市植物公園 園長）
所在地		〒114-0014 東京都北区田端1丁目15番11号ティーハイムアサカ201
電話番号		03-5685-1431
ホームページアドレス		http://syokubutsuen-kyokai.jp/
連絡窓口	氏名	皆川 有美
	役職名	事務局長
	電話番号	03-5685-1431
	E-mail	minakawa@syokubutsuen-kyokai.jp

○団体概要

全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園や植物に関する文化の発展と科学技術の振興、自然環境の保全に貢献する事業を実施し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的として活動している。昭和22年創設の任意団体日本植物園協会を礎に発足、昭和41年に社団法人、平成25年に公益社団法人に移行。平成28年より秋篠宮殿下が総裁に就任。日本の主な植物園と植物園・植物に関する事業を行う団体や法人119が加盟している（令和5年4月）。

○令和5年度事業について（研修、調査研究、行事、普及啓発等）

1. 調査研究、学術文化振興に関する事業

- 第58回大会総会、研究発表会（5/29-31 高知／高知県立牧野植物園）
- 全国の植物園概要調査
- 植物研究会（東京薬科大学）
- 技術者講習会（筑波実験植物園、東山植物園）
- 分野別会議
- 日本植物園協会誌第58号
- ナショナルコレクション事業（植物遺産の認定・継承、講習会等）

2. 生物多様性・植物保全等に関する事業

- 植物多様性2030年目標策定
- 絶滅危惧植物の保有状況調査
- オガサワラグワ保全共同事業
- 植物情報システム（データベース）の整備運用
- 外来種対策の広報
- 種苗交換の斡旋
- 植物多様性保全拠点園ネットワーク活動（種子等採集、現地調査、地域ごとの連絡会議他）
- 種子保存をテーマとしたフォーラム開催（WEB）
- ワシントン条約に基づく寄託管理業務（経産省）
- 希少野生植物の生息域外保全委託業務（環境省）

3. 教育・普及啓発に関する事業

- 牧野富太郎・「らんまん」による植物園利用促進事業（牧野博士の年譜・肖像・植物画・パネル等データ提供：協力牧野植物園、オリジナルのぼり配布）
- 植物園シンポジウム「牧野富太郎と植物（7/30 東京）」
- 教育普及ワークショップ
- 植物園オンラインツアー〈テーマごとに動画を公開〉
- 薬草ガイドブック頒布
- 協会表彰（植物園功労賞、木村賞、坂崎奨励賞、保全・栽培技術賞）
- 「植物園の日」広報〈当協会ではH19より5月4日みどりの日を「植物園の日」とした〉

団 体 名		一般社団法人全国美術館会議
代表者職名・氏名		埼玉県立近代美術館 館長 建畠 哲
所 在 地		〒102-0082 東京都千代田区一番町6-3-103
電 話 番 号		03-6272-8555
ホームページアドレス		https://www.zenbi.jp
連絡窓口	氏名	小林豊子
	役職名	事務局 総務幹事
	電話番号	03-6272-8555
	E-mail	info@zenbi.jp
○団体概要 美術館は、美術作品やそれに関わる資料・情報を集め、保存し、研究し、公開しながら、未来の世代に伝えていくという使命をもっています。また、コレクションの展示や、特別展、教育普及活動をはじめとするさまざまな営みを通じて、地域社会と連携し、市民と交流しながら文化創造の拠点となる役割も担っています。 全国美術館会議は、このような美術館の使命の実現を支え、その活動を社会的にしっかり根付かせるため、総会、総会記念フォーラム、講演会、学芸員研修会、研究部会等を毎年、開催し、その成果を会員館や広く美術関係者、また、一般の方々と共有しようと考えています。 日本の美術館がともに考え、ともに行動することをめざして、1952（昭和 27）年に設立された本会は、令和 2 年 4 月 1 日付で一般社団法人となり、令和 5 年 4 月 1 日現在で、正会員（会員館）405 館（国立 10 館、公立 254 館、私立 136 館）、個人会員 33 名、賛助会員 52 社で組織されています。		
○令和 5 年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） 1 研修 ・学芸員研修会（企画：研究部会持ち回り企画） 2 調査研究 ・研究部会（会合：各研究部会年 2 回程度） 会員美術館の学芸部門職員の中で、同じ業務を担当する者・同じ分野に関心を払う者同士が集まり、問題意識を共有しながら、共同研究、情報交換、研修会の企画実施等を行います。 企画委員会のもと 6 研究部会で構成され、所属館での日常業務の合間をぬい、積極的な活動が展開されています。全国美術館会議が、日本の美術館が集まる唯一、最大の連合組織であるために果たすべき社会への責任は、現在、こうした研究部会の日々の活動に基盤をおいていると考えています。 ①保存研究部会 ②教育普及研究部会 ③情報・資料研究部会 ④小規模館研究部会 ⑤美術館運営研究部会 ⑥地域美術研究部会 3 行事 ・理事会（第 1 回：令和 5 年 4 月 27 日開催、第 2 回：令和 5 年 5 月 25 日、令和 6 年 1 月下旬開催予定） ・総会（令和 5 年 5 月 25 日、26 日開催予定（開催地：愛知県名古屋市）） 4 普及啓発等 ・川崎市市民ミュージアム支援活動、東日本大震災復興支援・救援活動（災害対策委員会） ・機関誌発行（年 2 回）（広報委員会）		

団体名		美術館連絡協議会
代表者職名・氏名		会長 宮田亮平
所在地		〒100-8055 東京都千代田区大手町 1-7-1 (読売新聞東京本社事業局内)
電話番号		03-3216-8664
ホームページアドレス		http://birenkyo.jp/
連絡窓口	氏名	川村康則
	役職名	事務局長
	電話番号	03-3216-8664 (美連協代表電話)
	E-mail	jaam@yomiuri.com
○団体概要 全国 47 都道府県の公立美術館 149 館が加盟。加盟館による共同企画展、巡回展の開催、美術館活動の助成などを実施。1982 年 12 月創立。		
○令和 5 年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） ▽ 展覧会の共同企画、巡回展開催		

団体名		全国科学博物館協議会
代表者職名・氏名		理事長 篠田 謙一
所在地		〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20 国立科学博物館内
電話番号		03-5814-9863
ホームページアドレス		http://jcsn.jp/
連絡窓口	氏名	中山 美樹
	役職名	展示開発・博物館連携グループ係長(博物館連携担当)
	電話番号	03-5814-9863
	E-mail	info@jcsn.jp
○団体概要 自然史及び理工系の科学博物館(総合博物館を含む), 科学館, 動物園, 水族館, 植物園, プラネタリウム等が相互の連絡協調を密にし, 博物館事業の振興に寄与することを目的として, 昭和 46 年(1971 年)に発足。令和 5 年 5 月 1 日現在で, 全国 217 の博物館, 科学館等が正会員として加盟, また博物館等の展示・施設・機器に関わる企業等 19 社が維持会員として加盟している。		
○令和 5 年度事業について(研修, 調査研究, 行事, 普及啓発等) (1)研修事業 ①学芸員専門研修アドバンス・コース: 国立科学博物館との共催により, 博物館等で自然科学系部門を担当する中堅学芸員等専門職員 12 名程度を対象として令和5年 11 月に実施。 ②学芸員オンライン研修の実施: 国立科学博物館との共催により, 博物館等で自然科学系部門を担当する学芸員及び職員等 50 名程度を対象として令和6年1~3月頃に実施。 (2)連携促進事業 ①研究発表大会: 令和 6 年 2 月に開催予定。会場は滋賀県立琵琶湖博物館と調整。 ②巡回展の実施協力: 国立科学博物館製作の巡回展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」展をはじめ計 20 件の巡回展の募集に協力予定。 ③事業に対する後援など: 加盟館園や関係機関が実施する事業で全科協の設置目的に適合し適切と認められる事業に対し後援等を行う。 (3)広報普及事業 機関誌「全科協ニュース」の発行(16 ページ, 隔月), ホームページの運営など。		

団体名		全国科学館連携協議会
代表者職名・氏名		会長 毛利 衛
所在地		〒135-0064 東京都江東区青海 2-3-6 日本科学未来館内
電話番号		03-3570-9151(代)
ホームページアドレス		https://www.renkeikyo.jp/
連絡窓口	氏名	堀尾 拓也
	役職名	事務局（日本科学未来館 科学コミュニケーション室）
	電話番号	03-3570-9151(代)
	E-mail	renkeikyo@jst.go.jp
○団体概要 全国科学館連携協議会（連携協）は、地域における科学技術普及の拠点である科学館等の連携促進を図り、科学館事業の振興に寄与することを目的として平成5年に設立された。全国192館の科学館等が加盟（2023年3月現在）。正会員、協力会員、協賛会員で構成されている。年会費は10,000円。		
○令和5年度事業について <展示物の巡回> 加盟館や研究機関等と連携し、様々な展示物を加盟館に巡回する（2023年度は17種類の展示を巡回）。 <ブロック活動の推進> 全国8ブロックを構成し、ブロックごとに協力して相互に補完・啓発を行い、地域に根ざした活動を行う。 [ブロック構成] 北海道ブロック、東北ブロック、関東ブロック、北信越ブロック、東海ブロック、近畿ブロック、中四国ブロック、九州ブロック <科学館職員研修> 国内科学館研修（オンライン含）の実施 加盟館の職員同士のコミュニケーションを促進し有益な情報の共有を図る。 <相互人材交流> 館の垣根を越えた相互人材交流を実施し、各加盟館がもつノウハウやスキルを学び合う機会を創出する。 <新規巡回展示物・データ提供展示物制作への支援> 巡回展の更なる活性化を目指し、加盟館による巡回展示物制作を支援する活動を実施する。 <協賛事業> 企業と協賛して加盟館にイベント素材の提供等を行う。		

団体名		日本プラネタリウム協議会
代表者職名・氏名		理事長 毛利 勝廣(名古屋市科学館、2022 年 7 月から 2024 年 6 月まで)
所在地		〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄二丁目17-1 名古屋市科学館内
電話番号		052-201-4486
ホームページアドレス		https://planetarium.jp/
連絡窓口	氏名	毛利勝廣
	役職名	広報理事
	電話番号	052-201-4486(名古屋市科学館)
	E-mail	general01@planetarium.jp
○団体概要 日本プラネタリウム協議会は、「会員の交流と連携の下に、プラネタリウムの進歩発展を図り、豊かな文化の創造、科学教育及び天文普及に寄与する事」を目的として、2006年6月1日に発足しました。プラネタリウム施設・団体、およびそれに関わる個人等が参加する「日本を代表するプラネタリウムの会」です。 様々な研修や交流を通し、それぞれの施設や職員の資質の向上・プラネタリウム界のさらなる発展を目指しています。		
○令和5年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） ・全国大会 2023 年 6 月 12 日(月)～14 日(水) 倉敷科学センター(岡山県倉敷市) ・全国研修会 2024 年 2 月 19 日(月)～21 日(水) コスモプラネタリウム渋谷(東京都渋谷区) ・地域や目的別のワーキンググループが日本各地で研修会・研究会等を開催。 ・会誌の発行(1回)。 ・全国のプラネタリウム施設の基礎データの収集と処理を行い、結果を公表する。 ・日本を代表するプラネタリウム組織として、文部科学省、研究機関との連携を進める。 ・国際プラネタリウム協会(IPS)の友好団体として、委員を派遣して国際的な連携活動を行う。 ・2023年～2025年の近代プラネタリウム100周年記念事業を行う。		

団体名		全国大学博物館学講座協議会
代表者職名・氏名		委員長 駒見和夫
所在地		〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1 明治大学 資格課程事務室内
電話番号		03-5466-0268
ホームページアドレス		
連絡窓口	氏名	望月利昭
	役職名	全国大学博物館学講座協議会 事務局
	電話番号	03-5466-0268
	E-mail	zenpakukyo@gmail.com
○団体概要 昭和 32(1957)年設立、博物館学講座(学芸員養成課程)を開設する大学で構成 加盟大学 177 大学 委員長大学 明治大学 副委員長大学 桜美林大学・法政大学 東日本部会長大学 千葉経済大学、西日本部会長大学 九州産業大学		
○令和 5 年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） ・研修及び大会 令和 5 年 5 月 13・14 日 全国委員会(於、明治大学:ハイブリット開催) 令和 5 年 6 月 24・25 日 総会・全国大会(於、東京女子大学) 令和 5 年 11 月 17・18 日 西日本部会大会(於、関西大学) 令和 5 年 11 月 25・26 日 東日本部会大会(於、成城大学) ・刊行物 『全博協 研究紀要』第 26 号 刊行予定 『全博協会報』61 号 刊行予定 ・事業 加盟大学間の情報交換 大学における学芸員養成教育の望ましいあり方に関する検討 博物館学文献目録作成に向けての文献渉猟 ウェブサイトの開設		

団体名		大学博物館等協議会
代表者職名・氏名		会長・西秋 良宏（にしあき よしひろ）
所在地		〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
電話番号		03-5841-2802 東京大学総合研究博物館
ホームページアドレス		http://univ-museum.jp/
連絡窓口	氏名	佐藤 一昭
	役職名	東京大学研究推進部博物館事業課係長
	電話番号	03-5841-2802
	E-mail	um-shomu.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
○団体概要 大学付置の博物館、美術館、資料館、史料館等およびその他の博物館等で組織され、1998年発足。毎年総会を開催し、館長会議・実務担当者会議等を含め、全国の大学博物館等の活動に関する意見交換・交流を行い、当面する問題についての情報の共有を図っている。2023年現在、加盟組織は44団体。2006年度からは総会時に博物科学会を開催し、博物学・博物館学に関連する研究発表等を行っている。		
○令和5年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） 行事：2023度（第26回）大学博物館等協議会総会・第18回博物科学会は、6月22日（木）-6月23日（金）、北海道大学で開催される。 調査研究：年1回開催される大学博物館等協議会および日本博物科学会において、加盟館の活動報告や直面している具体的な課題などを協議し、情報共有のみならず相互協力による改善に向けた取り組みの実施を目指す。 普及啓発：大学博物館等協議会ニューズレター(MUSEO ACADEMIAE)第25号の発行。		

団体名		全国歴史民俗系博物館協議会(歴民協)
代表者職名・氏名		代表幹事館代行(国立歴史民俗博物館)館長・西谷 大
所在地		〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117 番地 国立歴史民俗博物館 博物館事業課内
電話番号		043-486-4303
ホームページアドレス		https://www.rekimin.com/
連絡窓口	氏名	立和名啓人
	役職名	国立歴史民俗博物館 博物館事業課長
	電話番号	043-486-4303
	E-mail	rekimin@rekihaku.ac.jp
○団体概要 設立年月日：平成 24 年 6 月 14 日 目 的：有形無形の文化資源の保存と活用に努める全国の歴史民俗系博物館の交流と連携により、歴史と文化が地域社会の基盤として不可欠であるという理念に基づいて、社会に貢献することを目的とする。 会 員 数：817 館（令和 5 年 3 月 31 日現在）		
○令和 5 年度事業について ・令和 5 年度総会の開催 ・関係団体等の会議への参加 ・歴史民俗系博物館のネットワークの充実と整備		

団体名		日本公開天文台協会 (Japan Public Observatory Society (JAPOS))
代表者職名・氏名		会長 村上 恭彦 (なよろ市立天文台長)
所在地		〒096-0066 北海道名寄市字日進 157 番地 1 なよろ市立天文台内
電話		01654-2-3956(代)
ホームページアドレス		https://www.koukaitenmondai.jp/
連絡窓口	氏名	安田岳志
	役職名	事務局長 (姫路科学館 (学芸・普及担当))
	電話番号	079-267-3001(代)
	E-mail	staff@koukaitenmondai.jp

○団体概要

本物の天体を通して自然観を養い、心豊かな人格形成に資するための生涯学習支援に取り組む公開天文台の発展を目的として、2005年(平成17年)に設立されました (前身の「全国の天体観測施設の会」は1992年(平成4年)発足)。この目的を達成するために、公開天文台間の情報交換および相互支援を行い、諸活動の充実と職員の資質の向上、ならびに職員と公開天文台の一層の社会的地位の向上を目指して様々な事業を実施しています。会員数は個人会員105、施設会員124、準会員31、賛助会員12、計272です (2023年(令和5年)3月31日現在)。

○令和5年度事業について (研修、調査研究、行事、普及啓発等)

(研修・行事など)

- ・全国大会 (研究大会、総会) 6月26日～28日 (姫路科学館)
- ・公開天文台台長会議 (未定)
- ・全国研修会、地区研修会、オンライン研修会など (2024年の天文現象(9月)ほか) (未定)

(調査研究など)

- ・調査研究委員会、博物館としての公開天文台委員会、次世代型公開天文台 WG、公開プログラム WG などの活動

(普及啓発など)

- ・キャンペーン事業 (スター・ウィークキャンペーン協力(8月)、ポン-ブルックス彗星(3月)など)
- ・ホームページやメーリングリストの運用

(刊行物)

- ・公開天文台白書 6月末刊行
- ・全国大会集録 12月刊行予定